明治四十二年七月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾六號目次

講演

○身體及其保護（承前）　ドクトル　富士川游

叢談

○食事の惡習　醫學士　內海靜一
○蚊と蚤　神尾驥子
○西洋美観法の今昔　A。S。生
○活ける家（承前）　醫學士　渡邊房吉
○小兒に於ける耳の攝生（承前）　醫學士　內海靜一
○西の字と醫學　醫學士　竹中成憲

育兒

○學童の看護（承前）　秋山柴朗

家庭衛生

○衛生小言　婦衛冠者
○病人の榮養品（承前）　A。S。生

雜報

○ペスト彙報○海港檢疫の現狀○脚氣調査會施療○初虎列剌○酒造家とサリチール酸○米商と白土

大日本婦人衛生會記事

○本會例會○山形支會通信○新潟支會通信○高崎支會○本會入會者竝資格變更○山形支會入會者竝資格變更○轉居

◉會　告◉

◉本月は前半期決算期に候間會費未納の御方は本年十二月迄の前金相添へ此際本會事務所へ宛御送金被下度候

◉前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○（七月發行の本誌）には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麹町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條　毎月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セシトスル件ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼れて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員每月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲每月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費每月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す。各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　每年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條　本會は每年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戶中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを告ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相寄て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の講義演說談話をこひ互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗槪を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を闡發せしめ關て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は場合により會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け書記錄雜務を掌る幹事、分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時[illegible]名委員の作●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす缺員補選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て之を補す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を囑托し會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す●第二十條　本會規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算竝に庶務の概要會計の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし開後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用は支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金品若くは寄附物品等を本會に寄附する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は懸く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衞生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
（いろは順）
幹事　鳩山春子
同　羽田三精子
同　岡田總子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山絲子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　山口眞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下吹子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

本會特別賛成員

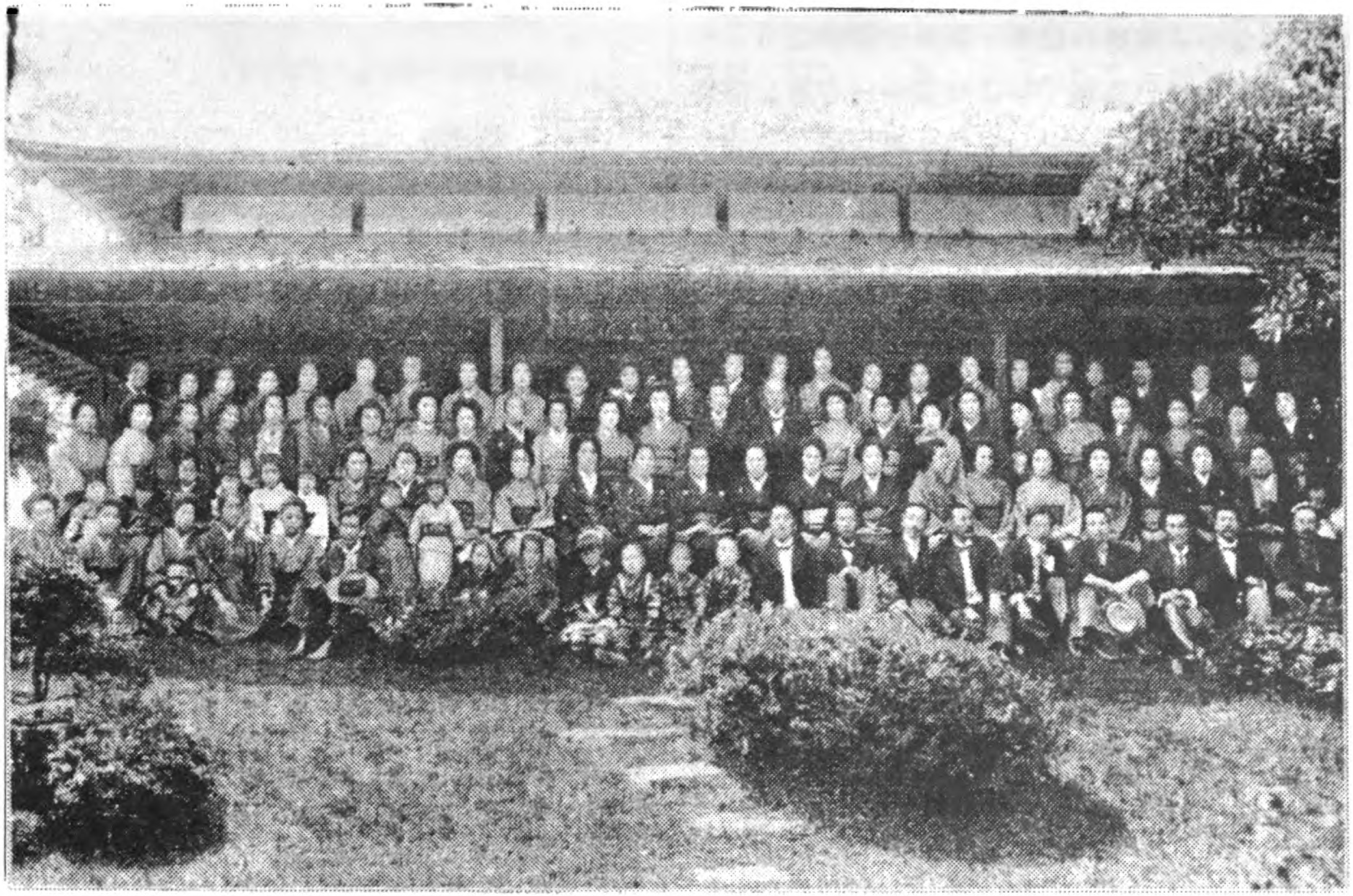
（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　・入澤達吉君
理學博士　・飯島魁君
ドクトル　・伊澤信平君
・色川圀士君
醫學博士　・伊東祐彥君
ドクトル　・飯盛挺造君
醫學博士　・伊藤隼三君
理學博士　・石川千代松君
赤十字社內科主任　・岩井禎造君
醫學士　・石原久君
醫學士　・磐瀨雄一君
醫學士　・石原喜久太郎君
男爵　濱尾新君
醫學博士　・濱田玄達君
法學博士　・鳩山和夫君
東京　荻原彌四郎君
醫學博士　・芳賀榮次郎君
・長谷川泰君
新潟　・長谷川一詮君
小兒科　・小原稻之君
醫學博士　・岡田榮吉君
醫學博士　・林春雄君
醫學博士　・佐藤達次郎君
醫學博士　・緒方正規君
步兵中佐　・郷内文次郎君
醫學博士　・土肥慶藏君
醫學博士　・岡田和一郎君
醫學博士　・大澤謙二君

醫學士　・大西秀治君
醫學博士　・大澤岳太郎君
一等藥劑官　・恩田重信君
醫學士　・若杉喜三郎君
醫學士　・渡邊房吉君
男爵　・加藤弘之君
醫學博士　・加藤照麿君
醫學士　・賀古鶴所君
醫學博士　・河本重次郎君
醫學博士　・片山國嘉君
醫學士　・川上雅量君
醫學博士　・櫻田鉀一郎君
醫學博士　・金杉英五郎君
醫學博士　・笠原光興君
醫學士　・唐澤光德君
醫學士　・河野衛君
醫學博士　・高橋順太郎君
ドクトル　・高山紀齊君
醫學博士　・高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　・田代義德君
新潟　・田代亮助君
男爵　・高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　・高田耕安君
新潟外科醫長　・高橋辰五郎君
藥學博士　・丹波敬三君
醫學士　高橋貞而君
藥學博士　・田原良純君
醫學士　・田村光顯君
醫學博士　・久保猪之吉君
醫學士　・米山彥郎君
二等軍醫正　・星野森光君
醫學博士　・宮本叔君
三等軍醫正　・横井忠國君
帝國教育會長　辻新次君
理學博士　・坪井正五郎君
醫學博士　・長與稱吉君
男爵　南部數男君
[illegible]　・長井長義君

醫學博士　・遠山椿吉君
醫學博士　・中濱東一郎君
醫學士　・黑田玄道君
醫學士　・栗本庸勝君
海軍中佐　・小笠原長生君
醫學士　村松鐵三君
醫學博士　・隈川宗雄君
醫學博士　・栗本東明君
醫學博士　・山田鐵藏君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　・山根正次君
岡山　・山川春二君
衛生試驗所技手　・丸山長四郎君
ドクトル　・松山陽太郎君
ドクトル　・小此木信六郎君
盲啞學校長　・小西信八君
廣島　・小泉賀君
醫學士　・古川榮君
東京　・布施正顯君
男爵　・後藤新平君
帝國大學名譽教授　・エ、ベルツ君
醫學士　・甲野梁君
寺田勇吉君
醫學士　・寺田博作君
醫學士　・寺田織尾君
子爵　・秋元興朝君
前軍醫總監　・足立寬君
ドクトル　・富士川游君
岡崎醫會長　土谷全次君
産科婦人科長　・水原漸君
ドクトル　・久保田誠磨君
醫學博士　・佐々木政吉君
醫學士　・淺田決君
醫學博士　・朝倉文三君
ドクトル　・朝山義六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　・佐藤三吉君
醫學士　・櫻井郁二郎君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　・榊順次郎君

醫學博士　・榊保三郎君
醫學士　・佐藤得齋君
醫學博士　・櫻井恒次郎君
醫學博士　・桐淵鋭次君
醫學士　・北村橘造君
醫學博士　・北島多一君
醫學博士　・北川乙治郎君
醫學博士　・木下正中君
醫學士　・北島小太郎君
醫學博士　・北里柴三郎君
醫學博士　・三浦守治君
醫學博士　・三浦謹之助君
小兒科專門　・宮本仲君
理學博士　・箕作佳吉君
醫學博士　・三島通良君
醫學博士　・三宅秀君
醫學博士　・三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　・島村俊一君
醫學博士　・弘田長君
ドクトル　・日高昴君
ドクトル　・須田卓爾君
醫學士　・澄川德君
醫學博士　・木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　・笹川三男三君
醫學士　・波多野傳三君
醫學博士　・吳秀三君
ミス　・リツテル
ミス　・ヒユース
ミセツス　・コーツ
ドクトル　・菊池循一君
醫學士　・橋本左武郎君
醫學士　・鳥居春洋君
醫學博士　・土田卯三郎君
ドクトル　・佐藤運雄君
ドクトル　・西山信光君
醫學士　・澤崎寬制君
藥學士　・石津利作君
醫學博士　・岡田榮吉君
醫學士　・森田正馬君



新潟婦人衛生會

婦人衛生雜誌第二百三十六號
（明治四十二年七月二十日發行）

講演

身體及び其保護

ドクトル　富士川游

私は身體及其保護と云ふ題で長く續けて、お話を致して居りますが、今日は小便のことに就て、少しくお話を致さうと思ひます。

それで我々人間は身體を養ふ爲に色々の物を喰べる其喰べた物は身體の内で段々に消化されて、血の中に這入る、その滓が殘る、其滓の固い物は是は御承知の通り、大便になつて外へ出る。固まらない物が其外に澤山ある、其固まらない物の中で空氣のやうな、瓦斯の形の物は肺臓から外へ出る。それからもう一つは身體の皮膚―身體の表面から外へ出て行く其外に固つても居ないし、瓦斯の形でもない物が水に溶けて出て來るのがすなはち小便であります。だからして小便と云ふものは身體の内で役に立たないから外へ出て行くもので、大便も同じく身體の内では役に立たない。そのものが外へ出て來るのですがこの小便を出す身體の道具は腎臓と云ふ所で、こゝで撰分けて、それを膀胱と云ふ其下に大きな袋があつて、其袋に溜て居つて、宜い加減の時に外へ出すそれで人間が時々小便をする譯になる。所が隨分人間は食物を喰べる、水も飲む、色々な物を飲むからして要らない滓が澤山に出來ますけれども、大抵小便の分量は定つて居る、無暗矢鱈に小便を出す譯ではない、一リートル半と云ふと丁度日本の桝目で以て七合五勺ありまする、當り前の大人はそれ位は出すのである。しかし餘計水を飲むからそれだけ餘計に小便が出ると云ふ譯でありませぬ。固より澤山水

を飲めば、小便は餘計に出ますけれども、一升飲んで一升小便が出るのでない、身體の中で使つて其使つた殘りを出すからして一升飲んで一升出るのでない。それから殆ど色が見えないと云ふのが當前である。もう一つは黄金のやうな黄い色をして居る、水を餘計飲めば殆んど見えないやうになるけれども、餘り水を飲まないで居れば立派な黄い色になる。それから極く健康なる小便は香が好い、小便は水よりも重い、さうして極く健康なる所の小便であると云ふと、透明であつて中に何もないのですけれども、當り前の物でも暫く置くと云ふと中に沈澱が出來て來る。それを大變心配する方があるけれども、暖めますると直ぐ溶けますから、さう云ふものは大丈夫である。暖めて溶けなくとも醋酸とか硝酸のやうなあゝ云ふ鹽類を付けると直ぐに溶ける。斯う云ふのは當り前の人にもある、殊に飯を喰べて其飯が腹の中で消化れる間に小便がさう云ふ風になる、であるからさう云ふのは無論心配な事はない、普通の小便にもさう云ふ事がある。しかし小便は元來透明なものである、水を餘り飲まなければ黄い色、水を餘計飲めば白い色、一種の芳香があつて、さうして水より少し重いと云ふのが當り前のものであります。是が腎臓、膀胱、其他の機關が病氣になる爲に色々な病氣が出來る。其病氣のことは無論お話する必要はないのですが、どうして病氣が出來るかと云ふことを知つて居ると云ふと、それを豫防して病氣に罹らないと云ふには大變都合が好い、早く醫師に診て貰つて治療を加へると云ふ事にも總てに都合が好いから、それをこれから大略お話致さうと思ひます。吾々が食ふ物が血液の中に入つて、使殘りのものが腎臓に入つて、漉されて要らない所の水が外へ出て來るのでありますからして、其漉す所の工合が惡ければそれで病氣になる。食べた物が消化されて血液の内に這入つて、身體中を循つて總ての職務を務めた後に其要らない所を漉して小便にして外へ出す。その漉す所の工合が惡ければ病氣になる、どうして

漉す所の工合が惡くなるかと云ふと、それは色々ありますけれども、早く言ふと醫學の方では腎臟炎と云ふ。其病氣はどうして起るかと云ふと、風を引くのが一番いけない、傳染病などに罹つては猶更いけない。食物の内でも唐辛、胡椒と云ふやうなひどく辛いものを澤山食べる、酒を飲過すと云ふ場合にさうなることがある。酒は漉す所を惡くします、病氣になりませぬまでも非常に早く漉しますから、酒を飲みますと水が餘計身體の外へ出るやうになる。であるから漉す所の工合を惡くしないやうに心掛けるのには、風を引かないと云ふ事が一番であらうと思ひます。それから今申した通り惡い食物を食べないそれで西洋の方では俗間でも頻りに言ふ事でありますけれども、一體男の子と云ふものは西洋でも日本でも、ズボンを膝の下まで穿いて居る、女の子も男の子と同じやうにしなければならぬ。我國でも今日のやうに西洋風に腰を掛けると云ふことになりますると云ふと、風を引かないやうにサルマタでもズボン下でも宜いからした方が宜からうと思ひます。袴を穿いて素足で椅子に腰を掛けて長く居りますと云ふと、餘ほど壯健な人でないと風を引かないと云ふことは言へないのであります。

前にお話した通り、小便と云ふものは大抵佛蘭西の量目の一リートル半位、七合五勺、グラムに直すと凡そ千五百グラムぐらゐ出るのが當り前でありますけれども、それがドン／＼餘計に出ることがある、普通の十層倍も出ることがある、是は病氣であります。さう云ふ病氣がどう云ふ譯か分りませぬけれども、それは神經に何か障りがあつて、其神經の病氣の爲に起きることがある。是は醫學上では、崩尿と云つて居ります、崩れる如く小便が出て來る。しかしこの病氣は餘り多くある病氣ではないのであります、神經に何か障りがあつて今申した漉す所がどうかなつて畢竟起きるのであります。

又小便が非常に餘計出て、さうして其中に糖分の這入つて居るものがある、これを糖尿といひますが、

此病氣は澤山にある、其排泄する小便の量は多きは一萬五千グラム、七升五合、殆ど八升ばかりも出るのです。其小便の中に糖分が這入つて居ると云ふのは、人間の身體の養ひとして取つた物が、身體の中で消化し其使ひ滓を出す。是は前に云ふた通りであるが、糖分がどうして小便の中に入つて來るかと云ふと、普通の食物の中にも砂糖がある。砂糖を食ふ又煮焚をするのにも砂糖を使ふ、さうでなくとも身體の工合で砂糖になるやうな物を食ふ、薩摩芋だの大根だのである。是等を身體の中で全然使ふことの出來ないと云ふ一つの障りがある場合、或はある場合には血液の中に澤山出て來る、其糖が小便の中に混る。又もう一つは種々今お話した通り、食へば直ぐ砂糖になる物を、身體の中で健康體ならば直に變化して仕舞ふが、障りがあるとそれが小便に混る、健康な人でも砂糖を澤山食ひますると砂糖が出るのであります。しかしそれは當り前に出るので直ぐ止んで仕舞ふ。けれども身體に障りがあるとなか〳〵止まない。

其極く著しい容態は身體が始めにだるくなる。さうして漸々身體が何となく痩せて小便が澤山出る、平常の小便よりも量が多くなる。夜などは隨分眠られない位度々便所に行かなければならぬ。其時に見ると云ふと小便の中に糖分があるのです。さうして非常に咽喉が乾いて腹が減る。身體が痒くて方々に子ブトと云ふやうなものが出來て、時とすると非常に身體が痛い、神經衰弱と云ふ病氣に能く似て居る、頭の工合が惡くなる、其結果肺結核と云ふ病氣に罹ることがある。もう一つは今のやうな身體の工合が惡くなると云ふと非常に身體に脂肪が餘計出來る。是は隨分澤山ある病氣でありまして、昔からあるやうでございます。西洋でも東洋でも昔からもう此病氣は分つて居る。日本では千年位も前に渇の病と云ふのが藤原時代の物語を讀むと云ふと澤山ある。其渇の病と云ひますのは支那の名前に消渇と云ふ病氣があります。餘ほど古い病氣で二千年前の書物に立

派に書いてある。今でも俗語に消渇と云ふのがありますけれども、是は全く病氣が違ふ、此糖尿病でない。さう云ふ風に古くからある病氣で、今日隨分多いのでありますが、是は療治をすると云ふことも隨分難かしい。併し早く療治をすると云ふ必要があるのでありますから、今お話したやうなどう云ふ兆候を表はして來るかと云ふ事はちよつと御承知になつて居つた方が宜いと思ひます。

もう一つ漏す所に障りがあつて小便が餘計出るとか少く出るとか、外の物が混ると云ふ、使つた滓の小便が下の方に流れて來て膀胱に溜る。宜い加減に溜つた時分に外に出すやうに身體の工合が成つて居るのを、どう云ふ工合か膀胱で旨く溜らない、其膀胱の工合の惡いので以て起る病氣があります。其中最も著しい、最もお話して宜からうと思ふのは、子供が寢間で小便をする、醫學の方では遺尿と云ひます俗語で申す寢小便、眼が開かないで子供が寢て居つて寢間の中でする。是は子供が能く寢入り込んでから一二時間ほど經つて小便をする、さうして小便をするのも大抵一回一度するのが多い。二度も三度もすると云ふことはある事はありますけれども、それは極く少い。其の中に非常に澤山子供が小便をして其晩に寢た時には便所に行く夢を見る、さうして夢で以て小便を出す。是は隨分多い、で其出す工合も病人などが遺尿と云ふことを致しますのは、小便がポツリ〳〵出るのでありますが、しかし此子供の寢小便と云ふのはポツ〳〵出るのでない、一時にザアット出して仕舞ふ。それならば、どうして子供が夜寢牀で小便を出すかと云ひますと、是は色々の人の調べがある。又色々の人の實驗がありますけれども詰る所其子供に神經の素因と云ふものがあつて、其人の身體に一つの惡い所があつて、其爲に起るのでヒステリーと云ふ病氣がありますが、其病氣が膀胱の所だけに出來ても矢張りさう云ふ事がある。さうでないにした所が身體の神經中に素因と云ふものがあつて、身體に何か申分があつて起るのでありま

す。詰り身體に病氣がある。病氣があると云ひましても癲癇があるとか、脊髓炎とか云ふやうな事ではない。神經にそういふ風な病氣があつて起るのは病氣の兆候でありますけれども、さうでなしに身體の神經に素因があつて、色々なちよつとした事で原因が起る。其ちよつとした原因と云ふのは、例へば鼻の内が息をすることが旨く出來なかつたとか、或は脫腸と云ひまして腸が腹の方から前の方へ出て來る病氣であります。或は其局部に何か腫物でも出來て居つたり、ちよつとした障りの爲に小便が非常に酸性が餘計あるとか、其局所にちよつとした所、或は鼻が惡いとか、或は腺病と云ひまして、身體が非常に惡いとか、色々なちよつとした事が他にあつて起つて來るのであります、詰り身體が別段惡くなく當り前の人であつて何時でも起きてするのを寢てすると云ふのではない、身體に申分があつて起るのであります。

それでさう云ふ患者を非常に叱る、是は何所でもさうのやうであります、小さい子供が寢小便をすると云ふと非常に罰するやうな癖がある。今はどうか知れませぬけれども、其蒲團を背中へ擔がせた事がある。さう云ふ事をする爲に其子供が臆病になつてさうして精神の發達が遲れる。是は西洋の人も澤山經驗して居る、隨分さう云ふやうな事をして居る。殊にビーデルトと云ふ人は其事に就て調べて居りますけれども、其人の說に依るを云ふと、寢小便をする子供は名譽心を非常に減じて、さうして度々罰せられる爲に臆病になつて、遂に噓を言ふやうになると云ふのであります。ボカイと云ふ人もさう云ふ調をして居る、外の人の調べもさうであります、で私等が調べました所でも皆なさうであります、皆樣がお調べになつてもさうであらうと思ひます。無闇に罰すると云ふことは……懲すと云ふことはどちらにしても宜しくないのであります。これを懲す爲に精神の發達を害する、是はもう衛生上、從つて敎育の上にも大に注意しなければならぬ事と思ふ。是は前に

も云ふ通り病氣があつて起る、申分があつて起る、併し癲癇とか何とか云ふ名の付く病氣ではございませぬ。身體の神經に素因があつて起るのでありますから、療治は其方に向かなければならぬ、それを無闇に叱付けると云ふことは宜しくないのであります。それならどうしたら宜いかと云へば、兎も角も夜度々起して小便をさせる、夜二回か三回か四回、五回も起して小便させれば、其間に小便をする氣遣はない。起きて居る間は夜寢間の中で小便を出すと云ふことは宜しくないと云ふ教育は無論しなければならぬ。心氣をかけるとか色々療治の仕方もありますけれども、醫學の領分でございまして、それは御承知にならなくても宜しいのでありますけれども、身體に一つの申分があつて、それから起きると云ふことは能く御承知になつて置く方が宜からうと思ひます。從つて教育上の問題になりますけれども、衛生上の方から申しまして懲罰して無闇に叱付けると云ふことはいけない、どうしても穏かに原因を尋ねて、それの方に向つて處置をしなければならぬことであります。

小便の事に就てお話を致す大體の點はまづそれだけ位であります。

叢談

食事の惡習

醫學士　内海靜一

食事の際に、色々誤つた惡習がありまするから、其れに就きまして一寸御話し致しませうと思ひます。人間の食量に、一定の程度があると同樣に、食物の温度も、寒熱其の中庸を得ることが必要でありまして、餘りに熱きに過ぎ、又餘りに寒冷過ぎますると、食物の通過する道すがら、其の壁にある粘膜を傷けるのでありますして、動物や人間の臟器の内で、一

番堅剛い歯の琺瑯質ですら、害せらるゝのでありま す。過熱なる食物を取る習慣の結果、胃潰瘍と申す病氣に罹り易いので御座ります。此の病は胃粘膜が衰弱する爲めに破れまして、大抵忽然吐血したり又烈しき胃痛に悩まされ、又往々危險なることには、胃を境界する腹膜が破れて穿孔性腹膜炎を起して、生命を賭するか、又は胃と腸との界が狹窄くなることのある一種の恐るべき病でありまして、扨て此病の責任者を問へば、過熱なる食物を調理へた料理人に歸すると云つても、宜しいのであります。原因としては其外に、平素澱粉性食物を多く攝取する人とか、又貧血症の人に發することがありまするが、是等の爲めに起ることは、先づ稀であります。

又寒冷過ぎる食物殊に飲料は、胃の神經を毀損しまするが、之れは曹達水などを能く飲みます故か、亞米利加人に、屢〻之れを視るので御座います。亞米利加人は、好むで強い酒類を混ぜますするから、其れが又一原因となるのでありませう。食慾を增進し又消化を助ける目的で、胡椒、芥子、山葵又強く辛いもの等、凡て強い藥味を用ゐ過すことは、宜しくありませぬ。其の爲めに胃を始終刺戟致しまするから、遂には慢性胃加答兒に罹る恐れがあります。

食物の撰擇上、注意すべきことは、同一物に偏しない様にすることで御座ります。成るべく、食事毎に食料を取り換へて、胃腸を喜ばせる様にすることが必要で御座います。之れに就きて、小兒などによくさう云ふ實例があります、哺乳兒の離乳期に於て、母乳から牛乳に換へるときに、長く牛乳のみを與へまするこ、小兒の飲量が減じてくる、不活潑になる元氣がなくなる、顏色も惡しくなり、體量も追々減少つてくるし、後には吐乳も致します。そこで醫師に一診を乞ふ、醫は牛乳のみでなく色々と消化し易い、重湯、ソップ、おまじり等を、交互に甘く調和して與へまするど、小兒は段々と顏色も薔薇色となり、圓々と肥つて參りまして、虛言を云ふた様に凡ての症状はなくなつてくるのであります。之れは

小兒が始中終同一物のみを飲むで居た爲めに、飽きまして以上の症狀が起きるので御座ります。之れと同樣に、純植物性又は動物性食物の孰れかに偏することも、佳くありませぬ。人間の混食が、動かすべからざる自然の法則であると云ふことは、人間の齒の構造、消化液の性質及び腸の長徑と身體の長徑との關係等が、明かに證明するのであります。過量の肉食の爲めには、痛風と云ふ關節病や、腎石病のみならず、英國などでは、癌の原因となり易いと申します。又偶然に盲腸炎の動機となることがあります。而て植物性食物の爲めに起る危險は、其の蛋白質の缺亡するのに原因するので御座います。生な煮ないものは食べては不可ませぬ。食物を煮たり、炙たり致しますると、其の成分の中迄、胃腸の消化液が浸み込み易くなりまするし、殊に大切なことは食料の中の寄生蟲が殺されて仕舞ふのであります。肉類ならば、諸種の寄生蟲を含むで居ります。就中、絛蟲の胎蟲と申しまして、該蟲が人間の腸管内で生活する前に、宿つて居る時機があります。絛蟲にも多種ありますが、普通、有鉤、無鉤、廣節裂頭の三種に區別致しまする、其の有鉤絛蟲の胎蟲は豚肉中に、無鉤のものは牛肉中に、廣節裂頭のものは魚肉殊に鱒鮭の肉中に棲息い致します。其れ故生か半煮の肉類を食べまするど、是等の胎蟲は人間の腸に達して腸壁に附著いて、生活し乍ら人體の膏血を絞ると云ふ惡むべき寄生蟲で御座います。牛乳ならば、結核菌、窒扶斯菌を含むことが能くあります。尤も牛の結核菌と人間のとは、全く異種であると云ふ說もあります。蒸溜しない水中には、流行時等には殊に、赤痢菌、窒扶斯菌、虎列剌菌など色々な病原菌を貯へて居ることがあるので御座ります、又樹から採つた儘の果實又は、野から拔いた儘の野菜には、種々の不潔物と共に、諸種の細菌、諸種の寄生蟲の卵卽ち蛔蟲、十二指腸蟲卵があることがありまするから、吾々の食膳に上る前には、能く〳〵是等のものを洗ひ流す必要があるのであります。又

果實の皮とか、小さい核でも、腸壁を刺戟しまするし、甚しきに至つては、盲腸炎を起す恐がありまするから、能く注意して取り除ける必要があるので御座ります。

毎食事前に、手を湯と石鹸とで、清潔と洗ふことは什麽しても怠つてはなりませぬ。所が吾國などでは何處の料理店でも、殘念なことには、恐らく行はれて居ないと思ひますが、この手を清潔にすることは家庭よりも一層料理店などでは、必要なことであります。畢竟、街道から不潔物を脊負ふた御客が、出入する爲めであります。けれども家庭であるからと云ふて、決して等閑にしてはなりませぬ。食卓に向ふ前には、假令一見清潔らしく視えても、必ず一旦手を洗はなければなりませぬ。一度清潔にした手で新聞なり雜誌なり凡て食事には不用ないものを、いじつては、折角の清潔も失敗になるのでありまするから注意せねばなりませぬ。

喫食べるときに同時に飲料を攝つても佳いかと申しますれば、造作もなく然りと答へます。食事中に液體を飲みまするど、胃液の鹽酸の分泌作用を盛にさせまするから、食慾が增進して參ります。然らば飲料としては何が宜しいかと云ふ問が自然起りましよう。是れには胃の消化に對して、前に申しました樣な助けを致しまする色々の飲料中で、一番害のないものは、單の水であります。番茶や湯で澤山であります。アルコール含有物は、食慾を增さしめる點は勝れて居まするが、缺點が隨分澤山伴ふて居ります。昔希臘の諺に申しまする『水ほど重寶で安價いものはない』と云ふ言葉は眞であらうと思ひます。水ならば外の飲料と異つて飲み過すと云ふ危險もありませぬ。

夫れから毎食後には、直に水で含嗽を行りまして口中を清潔にし、又歯の間は楊枝を以て挾まつた食片を、掃除することは歯の衛生上怠つてはなりませぬ。

終りに臨みまして、尚ほ申上げたいことが二つ許り

あります。第一食後十分乃至二十分間は、少なくとも安靜にして居ることが、食物の消化を催すのに、最も緊要なことで御座います。このことは經驗上許りでなくて實驗上の話であります。或人が動物試驗に犬を用ゐまして、其犬に食後暫時休憩させました後で、兎を追はせましたら、其結果消化は大變遲かがありましたが、これに反して食後直に追はせますると、消化は容易く行はれませんでした。

食後の安靜と申しても、食後直に睡眠することは、佳くありませぬ、こゝに云ふ安靜とは、座つて居て精神身體を勞しない様にすると云ふ意味であります。

食後の安靜が何故必要であるかと申しますれば、胃の内に食物が溜りまするると、食物は胃壁の粘膜を刺戟致しまするから、其所の毛細血管に方々の血液が競ひ趨りまするから、胃液の分泌作用は、旺盛になつて、食物が消化されると云ふ運びになるので御座います。所が食物直に運動しまするとか、心配事などして腦を使ひまするると、折角胃壁に集注した血液は、散りぐに遠く手足から腦髓の方へ、追ひ遣られて仕舞ひまするから、隨つて、胃液の分泌が耗りまして、消化が鈍ると云ふ理由になるのであります。其れ故胃の中に、食物が消化しないで停滯つて之れが度重なる内には遂に胃加答兒に罹ると云ふ次第になるので御座います。諺にも、御腹が一杯では勉強も快く出來ないと申しまするのは、畢竟血液が胃腸に集りて消化最中であるから、腦髓の方は御留守になつて居ると云ふ意味であります。これとは恰度反對ではあるが、深き想ひに沈むとか、怒るとか、哀むとか、ひどく腦髓を惱ませて居るときに、消化力が鈍るのは、全く同じ理由であります。夕餐と睡眠との間は、數時間の猶豫を要すると云ふことを主張する人が數多御座いまするが、以上申述べました理由から推しまするると、睡眠しても胃粘膜の充血を妨げることはない筈でありまするから、差支へはなからうと申す人もあります。兎に角これにつき

て未だ一定の說はありませぬ。

第二に申上げたいことは、過冗でもなからうかと思ひますから、簡單に一言附け加へませう。外でもありませぬが、食物の料理法とか、食器の列べ方とか又喰べ方などは、吾々の食慾に影響することも夥しいのでありまするから、是等のことに意を用ふることも必用であります。又獨りで淋しく食卓に向ひまするよりか、一家團欒の裏に、又は肺肝の朋友などが相集つて、快談を交へつゝ會食したり攪き鍋を致しまするど、云ひ知れぬ甘味のあることは、已に御存知のことゝ思ひまするが一寸申し上げたので御座ります。

蚊と蚤

神尾驥子

世の中には吾等人間に危害を加ふる昆蟲所謂害蟲は決して少くはありません、あぶ、はい、はち、毛蟲等は皆害蟲に屬するものでありまして直接間接に人體に害を與へます。例へば蠅は傳染病毒を傳播する危險な媒介者となり、毛蟲は其成蟲こそは罪もなく空中に飛翔する美しき蝶でありますが幼時は種々野菜其他の植物の葉を食ひ盡して大害を與へます、また「うんか」と申します昆蟲は稻作に大害を釀す害蟲であります、併し是等は何れも間接に人間に害を與ふるものでありますが、蚊と蚤とは直接に人間を襲い其血液を吸ふて生活する、いはゞ恐るべき害蟲であります。

蚊と蚤とは一寸見た所では一方は翅を以て空中を飛翔し、一方は長い強い足を以て跳びまはり、一方は灰色がゝつたうす穢い蟲で、一方は眞赤なすべ〳〵した蟲でありまして、大層異つた蟲でありますが、動物學から見ます時は雙方共に人の血液を吸ふて生活して居る所や、及び其構造の點から此れは昆蟲仲間でも同じ種類の雙翅類と申すものに屬して居りまして、蠅、あぶ等とも親類になつて居ります。斯樣

申しましたならば翅のある蚊と、翅のない蚤とが親類とは誰も不審と思はれませうが、併しよく詳しく檢査して見まするど、蚤も小さな翅をもつて居ります、それは極く小さな鱗の様なものでありまして、空中を飛ぶ役にたゝぬばかりであります。此點に於て此兩種の雪と墨の様に懸隔して居る昆蟲が同じ種類に屬するのであります。猶其構造を精細に觀察し其生涯の經過を研究して見ますれば、通常の人の夢にも見る事の出來ない奇觀で御座いまして、其の惜むべき敵である事を忘れしむる程であります。

人間の血液を吸ふて生活する昆蟲は蚊と蚤ばかりでは御座いません、虱、毛蝨、南京蟲等も之れでありますが、是等は唯人の血液を吸ふに止りまして、蚊や蚤の様に恐るべき傳染病の媒介をする事は少いものであります、たゞ信濃の木曾川の流域に産する「あかむし」は恙蟲病と申しまする病氣の傳播を媒介するそうであります、でありますから此所には主に蚤と蚊とに就て御話いたしませう。

一、蚊

蚊と申しましてもいろ〳〵ありますが、最も普通のものは晝間は暗い所に潜伏して居て、夜になると出て來て人を刺すものであります。其外「やぶか」は晝間人を刺す大きな蚊でありまして、足に白い輪紋があります。我々が最も注意を要するものは「アノフエレス」と申す一種の蚊でありまして、晝間も夜間も出で人を刺し、かの恐ろしい瘧（マラリア熱とも間歇熱とも申します）の傳染を媒介するものであります。またある一種の蚊は九州殊に大島地方に流行する「くさ病」（フヰラリアと申す寄生蟲の爲めに起る病氣であります）の媒介をいたします。

先づ普通の蚊に就て御話いたしませう。其外形は諸姉の御存じの通り灰褐色の細長い蟲で、其の足は極めて長く三對ありまして、止まる時は後脚は地につけないで居ります。翅は二枚ありまして其の下には大鼓の撥形のものがあります。通俗に「あぶ」の眼といふものと同じものでありまして、空中を翔ける時

に體の平均を取る爲めの道具なそうであります。少し度の強い蟲眼鏡で之を見まするこ、肉眼で見た時こは大變な相違でありまして、全身に細いあまり長くない毛が密生して居りまして、恐しい樣なものであります。猶其毛の外には團扇形の鱗が生えて居ります、蚊をつぶした時に手につく粉末は此の鱗であります。頭には一對の大きな眼があります、之をよく見ますれば網の眼の樣な構造をもつて居る事が知れます。其詳細は略しませう。

蚊の口吻、少し強く攫む時は直くつぶれてしまふあの軟かな體をもつて、よく我々の強い皮膚を螫す其の口は如何なものでせうか、之れは人の知りたい事であります。御存じの通り蚊の口吻は細長い絲の樣なものでありますが、蟲眼鏡でよく檢査して見ますれば、實い精密なる構造をもつて居る事がわかります。卽ち外にあるものは鞘でありまして、中には外科醫の持つて居る樣な種々のものを具て居ります。卽ち此鞘を開いて見ますると五本の軟かな極めて細い針が出ます、中二本は三稜の劍でありまして、先端少しく反り、反りたる背の方に刃の細かき鋸齒をもつて居ります。之れが卽ち人の皮膚を傷けるに必用なものであります。他の三本は眞直な針でありまして之を傷口より刺し込んで血を吸いあげるのであります。元來是等の針は軟かなものでありますが、外側に鞘があります爲め容易に皮膚を傷ける事が出來るものだそうであります。是等の武器は頗る細いものでありまして、之を縫針に比べまするこ、丁度劍こ針この比位の割にあたります、でありますから人を刺した傷は極めて小さく殆ど見る事が出來ません、痛みもなければ痒みもありません、併し暫くしまするこ其所は腫れて來て痒みを覺えます。

蚊の毒、此の痒くなり且つ腫れてくるのは蚊が一種の毒を注入する爲めであります。抑々人間の血液は血管の中にある間は流動する液體でありますが、其外に出ますれば間もなく凝固して固體となります。固體となりましては蚊は之を吸ふ事が出來ません故

に、蚊は血液の凝固を妨ぐる一種の毒をもつて居ります。人を刺した時には先づ第一に此毒を注射し血液の凝固するのを防ぎます、此毒が即ち人畜に有害なものでありまして、之を除き去る事は困難であります、腫れ上り、痒みを覺ゆるのは此毒の爲めであります、之を掻く時は益々毒を擴げて害を大にするものであります。アムモニア水か、淸水で洗ふ時は少しは痒みを軟げ、腫れるのを防ぎます。

人を刺す蚊は雌であります。人を刺し、人の血液を吸つて生活して居るものは雌であります。雄は人の血を吸いません、主に花の汁や酒、砂糖等を吸ふて生活する上戸下戸兼帶のものであります、でありますから雄が人家に來る事は少いものでありまして、多くは一生叢林中又は沼澤等に近く住んで居ります。雄も血液を充分吸ふ事の出來ない時には酒砂糖等を副食物にいたす事があります。

雄と雌とは如何程異なるか、と申しまするに雄は一般に雌より小さいもので、頭には一見二對の羽の樣な觸角を持つて居りますから容易に雌と區別する事が出來ます。夏日燈火に迷ふて來る小蟲の中には澤山混じて居ります。

蚊の生涯、總て昆蟲は卵から成蟲になるまで三階の時代を經過いたします、即ち卵から孵化したものは幼蟲と申しまして翅も持たない最も盛に成長する時代であります蠶、毛蟲、蛆等の類であります。次の時代は蛹と申しまして食物も取らず又多くは運動もせぬ時代であります。第三の時代が即ち成蟲として翅をもつて飛び出す時であります。此時代は主に生殖をする時期でありまして成長する事はありません。蝶の花間を飛びまはるのも、蟬が炎天になくのも皆交尾産卵の目的をもつて居るものであります。

蚊の卵、蚊は成熟しまする と桿棒狀の卵を産みます。之は數十個づゝ頭を竝べて水面に浮べるのでありまして、一疋の雌の生む卵の數は實に三百に達します、夏の日吾々の周圍に襲い來る蚊軍の多いのも無理のない事であります。此卵は凡そ二週間位で孵

化して幼蟲となります。

蚊の幼蟲、之れは御存じの孑孑でありまして、停水溜り水、溝渠、天水桶、或は沼池、等に生活して居ります。俗に孑孑がわいたと申しますが、凡て昆蟲は獨りでに涌くものではありません、皆卵から孵へるのであります。此孑孑も卵から孵へつたものでありまして、屈伸して巧みに水中を泳いで居りますが猶空氣を呼吸する蟲でありますから、いつでも水面に浮んで居て、其後端にある氣管を水の外に出し呼吸を營んで居ります。頭は大きくて水中に沈んで居ります、二つの大きな眼と一つの口とをもつて居ります。其食物は水中に居る小動物、腐敗せる物小植物等であります、でありますから孑孑が長く住んで居ります時は其水は奇麗に濟みます、此點に於て孑子は寧ろ益蟲といはねばなりません。

蛹、は其幼蟲に似て居りますが頭がもつと大きいので通常鬼孑孑と申して居ります。其呼吸する氣管孔は尾端にあるものでありませんで、脊の眞中にありますから、蛹は水面に浮んで此所を出して居ります。孑孑が蛹になる迄は二三週間かゝります、更に之が成蟲となりますのは一週間の後であります。

成蟲となる時は蚊の一生の中の最大危機でありまして、水棲のものが空中に飛び出す其の危い刹那の有樣は極めて面白いのでありますが、あまり長くなりますから省略いたしませう。

「アノフエレス」羽に斑紋がありますから羽斑蚊とも申します、普通の蚊と異なる所は羽の斑紋と、其休止する時の樣子で、普通の蚊が止まる時は其の體は水平でありますが、羽斑蚊にては頭を地に近け、尻を高く立てゝ所謂『しやちほこだち』をして居ります。其幼蟲は主に水草などを食ふて居ります。此蚊も大抵何所にも居りますが、東京では殊に不忍池近傍に多いとかいふ話であります。

蚊と傳染病、蚊の媒介する傳染病は前にも申しました通り瘧即ち「マラリア」と「フヰラリア」とであります。「マラリア」は人の血液中に住んで居る一種の下

等生物でありまして、其卵は蚊の血を吸ふ際に血と一所に其胃の中に達し、此所で發育して幼蟲となりまして、それより胃壁を破り、其の唾腺に入りて居ります。其蚊が再び他の人の血を吸ふ時に其唾液の中に混じて血液の中に注射され、遂に繁殖して熱を起すのであります、此の「マラリア」を媒介する蚊は「アノフエレス」ばかりでありまして、他の普通の蚊の胃の中では「マラリア」の幼蟲は發育いたしません。

「フヰラリア」とは長さ二三寸の細長き絹絲の樣な蟲で、人體内に這入て居りまして澤山の子供を產みます。此子供は皆血液の中に出て參りまして、蚊が血を吸ふ時其の胃の中に入り胃の中で發育し唾腺に出て唾液と共に他の人體に注射せらるゝものでありますが此の傳染を媒介する蚊は普通の蚊であるか、又は一種特別の蚊であるかは未だ確かにわかつては居りません。「フヰラリア」が寄生して起る病氣は一寸「マラリア」に似た所もありますが、それよりは一種特別の症狀を起すものでありまして、熱と共に主に陰部殊に陰囊及び陰莖と足との皮膚が漸次厚くなる病症であります、九州では「クサ」病と申すそうであります。大島地方、天草地方に多い病氣でありますが我國には全國にある樣であります。また同じ「フヰラリア」でも唯だ尿の色を牛乳の樣に變化する丈けの症狀を起す事もあります。

蚊の驅除、蚊は我々の血液を吸ふばかりでさへ充分嫌ふべきでありますが、殊に嫌ふべき病毒の媒介を致すものでありますから、其害をさける事は必要であります。其害をさける方法は種々あります。

蚊は高く飛ばず、蚊は何種類によらず高い所迄は上りません、でありますから三階の高屋には蚊が稀であります、二階は階下より蚊の襲擊を蒙る事が少いものであります。熱帶地方にては殊に惡性の「マラリア」が流行いたしますが、蚊の襲擊も頗る盛でありますから、土人は種々の手段を講じて蚊をさけるにつとめて居ります。其の土人の最も全安なりとす

る法は高き木の上に寝るといふ事であるさうで御座います。

蚊は明るきを好まず。蚊は常に暗い所を好んで、夜間人を襲ふに致しましても燈火の光の明るい所には來ず、机の下、椅子の下、屏風等のかげに徘徊して人を刺します、でありますから電燈瓦斯燈等を以て室内を充分に明るくするのも蚊の攻撃を逃るゝ一法であります。

蚊遣り、之れは昔から行はれた法で、松葉、杉葉杜松等を薫べたのであります。就中最も效のあるのは除蟲菊の粉末を薫べるのであります、ある地方では蠶糞を乾かして薫べる所もあります、支那にては松或は杜松の鋸屑に少量の硫黄と砒石末とを混じ、之を薫べるさうであります。

根本的驅除　蚊を絶對的に少くするには蚊の生活の道を斷たなければなりません。之れには孑孑の生活する様な水溜りをなくするのでありまして、排水をよくし、溝をさらへ、雨水の溜る窪地を埋める等であります。是等の水溜りさへなかつたなら蚊は發生する事が出來ないのであります、高臺の地に蚊の少ないのは此爲めであります。又叢林には雨水が長く溜つて居る事がありますから、不必要な草木は成る可く除く事が必要であります。

又池が大きくて之を埋める事の出來ない様な場合には其中に魚類殊に金魚や鯽鯉等を放飼するは宜い法であります、是等の魚類は池中に發育した孑孑を食い盡す能を持つて居ります。

又溝渠の如きものには石油、パラフヰン油等を注ぐのも孑孑を殺す一方法であります、即ち油の薄い膜が水面に出來ますから孑孑が呼吸する事が出來なくなるのであります。

其外自然界に蚊を取り食ふ動物即ち蚊の敵は、とんぼ、かげろふ、燕、よたか、あまがへる等であります。

（以下次號）

西洋美貌法の今昔

A S生

美貌とは何ぞや、一言を以てこの問題に答へることはむづかしいので、人類の美貌の理想は、すべての時代、すべての國民によりて色々に異て居る、今日もやはりさうでありますが、美貌といふ觀念は、文明人に於きましては、その發達の低度な國民に比して遙に高尙で且つ純潔であることは勿論であります。

身體の美といふものは、その安全なる健康を外にしては、考ふることの出來ないものであるといふことだけは確かなことでありまして、この點より見ますれば、元來美貌法は醫師の受持領分なのであります。

吾々は種々の關係に於て、古人の生徒でありまするから、その古代の美貌法と近世の美貌法とを比較して見るのも、敢て興味のないことでもなからうと思ひます。

今日とても左樣でありますが、古代の化粧法は、殆ど全く女性の美貌法に限つたもので、男子は大抵ただ香物と毛髮藥を用ゐた位のことであります。

昔埃及の若い女共は、赤と白の顏料を用ゐ、髮に油をつけ、足と手の爪は「ヘンナ」を以て「オレンヂ」色に染め、睫毛は「メステ」と申して硫化安知母尼で染め、眼緣にもこれを塗り、髮の染方を知て居りますし、息の香を好くする爲には乳香を嚼で居りました。

猶太人は、古の埃及人より此の化粧法を色々取用ゐて發達させましたが、しかし化粧法の眞の發明者また完成者は、古の希臘人と羅馬人でありまして、その處方の大部分は、今日もなほ用ゐられて居ります。

これは先づ主要なる一般法として、十分沐浴をする。沐浴して後に好い香のする揮發油を混せた油、或は羊脂、今日の刺納林などを身體に塗り、白色と紅色の顏料、香薫用また汗止の粉も知られて居りまして古羅馬人は、希臘より傳來した化粧法を發達させた

のであります。

その肌膚を軟かに且つ滑かにして置く爲には、貴婦人は非常に務めて、また頗る不快な身嗜を致したものであります。乃ち晩には先づ牛乳と麪包屑の膏藥或はまた脂濃き豌豆で拵へたものなどを顔に塗りつけ、朝になつて、水又は穀類と沒藥の乳劑、或は驢馬の乳で以てこれを洗ひ落し、それから顔と手と胸とは、羊脂を塗り込むのであります。又手脂を去るのには、山毛欅灰と山羊脂とで造た石鹼を以て洗ひその上にまた牛乳を手に灑いでこれを乾かす。浴湯は「ヤスミン」油で匂をつけ、湯上りには、熟練した者に手と足の拵をさせ、爪を切つて硬皮を去る。その香の好い石鹼、油類並に揮發油の香料の數は澤山ありますが、名高いのは「コスモス」でありまして、「コスメチック」といふ名もこれから來たのであります。

また賓客に匂いのするものをかけるといふ習俗は、今日の吾々には、餘程奇異に感せられるのでありますが、彼の子ロの宴會には、極上等の香水の霧を招待者の上に天井から降らしたといひ、トリマルキオの宴會では賓客に香油を灑ぎかけたといふことであります。

齒を磨くこと、齒石を除くこと、又缺けた齒に物を被せ或は繕ふことも知られて居りました。口の爲には薔薇水或は洎夫藍で香をつけた水を用ゐ、或は乳香、沒藥を嚼で居ります。又顔の皮膚の爲に應用された所の塗藥には、風化した曹達（アフロニトルーム）、或は「サルミアック」を用ゐたのであります。

髮は、木或は象牙の櫛を以て梳げづりて油を塗り、又毛髮に鏝をあてたり、縮らしたりすることには頗る念を入れたものでありますが、髮に網を掛けることも既に應用されて居りました、染髮藥としては、綠色の胡桃皮を應用し又醋酸鉛も用ゐられました。鬘や髭には日耳曼毛が多く用ゐられまして、髮の色を拔くのには強い亞爾加里性の石鹼を使ひましたか後にはブロンドの日耳曼毛が流行になりました。理

髪師は、專門家として醜い顏の毛、腕、足の毛を除き、これに剃刀或は輕石を用うる。女はまた「コルセット」の代りに胸紐を用ゐて居るのであります。羅馬の滅亡後には、化粧法もやゝすたりましたが、中世期に至りて佛蘭西に於て更に發達致しました。尤も昔の化粧品は、大分忘れられて仕舞ふたのであります。

又個人の家に於ける沐浴及び公衆浴場に於ける沐浴の習俗も、羅馬人と共に漸次忘却されてしまふたのでありますが、この沐浴は、また一部に教會側から禁ぜられたのでありまして、聖ヒロニムスは、幼時より一切沐浴をしなかつたと云ふやうな次第であります。それで十八世紀の後半期に至りまして、再び沐浴の良好なる影響が多少新に發見されねばならなかつたといふ始末でありますが、最初は只だ足だけの沐浴で、牀屋が持て居る僅の盥を病人にのみ應用したのであります。それが段々また全身浴の認めらるゝやうになつたのであります。

十八世紀の末頃に染髪粉を塗るのは有害であるといふので棄てられ、千七百七十九年の英國議會でこれを禁ずることゝなりました。

當時已に獨逸の醫者は、最も效力ある唯一の化粧法として、千七百八十六年のワイマールで出したモーデン新聞で沐浴を勸めて居ります。

以上の如き有樣でございましたが、かやうな習慣も忽ち變つて、ほゞ今日と同樣に成てまゐりまして、學術の進歩につれて、追々改良され、變化され、化粧法の大部分は、殆ど醫師或は齒醫者の仕事と成たのであります。

痩せる法、或は肥る法は、啻に疾病狀態を癒す爲に行はるゝのみならず、また化粧的の目的に應用され脊椎の彎曲及び骨の畸形は、不具療法的に處置せらるゝといふ譯で、兎に角完全なる健康なしには、美貌といふことは考へられぬのであります。

そも〳〵體形の美は、第一骨格に關し、次に筋肉の性狀竝びに脂肪組織の分配に關するものでありまし

て、身體と四肢の各部は、善く釣合を保つて居なければなりませぬ。今こゝに一々美貌の特徴を擧げてお話することは困難でありますが、主として其の攝生法に就て述べて見やうと思ひます。

先づ美貌法に於て最も大切な方法と致しましては、古より沐浴を採用致したもので、今日と雖も微溫浴、又はこれに糠を混じて用ゐ、且つ全身按摩法を行ふことは、身體を若やかに保つ所の最良の方法なのであります。しかし既に若い時分より、この衞生法と同一である所の美貌的衞生法を始めなければなりませぬ。そこで哺乳兒の榮養の全般に注意して、骨の彎曲を起さぬやうに、或は筋肉及び脂肪の發育に異常を來さゞるやうに心を用ゐなければなりませぬ。少女の健康發育は、しば／＼締紐に由て障碍され、再び善くすることの出來ないやうに成ることがありまして、其の結果は高度の萎白症、腹筋及び背筋の弛緩、腸の障碍等であります。是を以て、醫師と敎育家は、兩親と相提携して、是等の不良狀態を排除することに勉めなければなりませぬ。

緩き着物、コルセットの禁止、新鮮なる空氣中に於ける盛なる運動、無刺戟性にして有力なる食餌、體操及び遊技、テニス等は、最も良き發育不全の防遏法でありますが、身體を強固にすることに由て、その美は更に一段と進められます。この目的には、先づ冷水摩擦、光浴、空氣浴及び日光浴、治療的體操法及び各種の遊技を用うるのであります。

有害なる過度の脂肪沈着を除く爲めには上に述べました體操法の外に、新陳代謝を盛にし、且つあらゆる種類の病的產物を排除すべき能力ある電光浴を以て卓逸なる方法と致しますが、この電光浴に於きましては、身體を日光の如く照らして、皮膚機能は旺に興奮せられ、あらゆる病的產物は、汗に由て尿酸の排出さるゝ如く排除されて、全體の臟器は强められ且つ新に生氣を帶ぶるものであります。これと同じく理想的の瘦せる法たる光浴の後には、これに次で微溫浴中に於ける冷却、安靜纏絡法及び按摩法を

行ひます。要するに根本的の化粧法は、嚴密なる醫師の檢査と、理學的榮養法的原則に從て指導さるゝ所の一般處置を俟て、初めて其の效果を收めらるべきものであります。

皮膚の養生には、シュライヒ教授のパスター及び石鹼が頗る推選するに足るもので、これには委しい使用法も添へてあります。凡ての美顏水、染髮藥、臙脂類、口腔藥等を今こゝに擧げることは省きますが是等は殆ど古の希臘及び羅馬時代に於けるものと同樣で、たゞ化學的智識の進歩に由て種々に改良されて居るまでゝあります。

古代に對して化粧法の進歩したといふ點は、美の缺陷は、往々たゞ身體に於ける疾病の徵候であるといふことの知識に由て表はれて居るのであります。この昔人の知らなかつた智識に由て、現代の化粧法は學問の範圍に高められた譯であります。かくて最早改良の餘地もないかの如く見えますが、まだ／＼色色の事が出來まする。私は今一つ擧げて見やうと思ひますのは、鐵光輝照による禿頭の療法であります。これは醫者に依て實施され、學術的に試驗されて、多くの場合に有效であることを證明されたものでありまして、盛に所々の商會などで發明された、所謂毛生藥なども排斥される次第であります。何故とならば、これは其の最も有效な場合でも、たゞ頭の皮の養生、その興奮位の役にしか立たないからであります。凡て是等の藥劑の多數は、その無效なことを證明されましたが、何れの範圍に於きましても、化粧法のやうに祕密藥消費の盛なものはないのであります。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二七）活ける家の建築材料（中）

五穀野菜の類は活ける家の主要建築材料でありますが、

菓實、胡桃

の類は活ける家の柱や、壁や、牀の間などに於ける黄金白金の裝飾に比ふべきもので、何れも秀れて美はしく、而かも頗る滋養に富んだ良き食物であります。眞紅の林檎、黄色の梨子、紫衣を著けた葡萄、茜色の覆盆子、透明るやうな熟柹、……色樣々の菓實は又樣々の形狀を備へ、或は圓く木梢にかゝり、或は長く枝端に垂れ、或は群族密集して家族相親しんで居ります。四季折り／＼の菓實は、此の如くに各がじゝ千種の色と形狀とを裝ほひ、我等の眼をよろこばせる計りで無く、又

さま／＼の香味と風味

とを備へ、嗅いで鼻にこゝろよく、味つて舌をよろこばせるものであります。何れ如何なる趣味の人でも、全く菓實を好まぬと云ふものゝ無いのは、菓實が人體構造に缺くべからざるを示す所以であります。病ひの牀に捉はれて日夕藥餌を友とし、食慾とては全く無く、鷄卵も牛乳も米汁も粥も、見るからに厭味を起させる樣な時にも、菓實のみは快く味はれ、これによりて元氣を得、食慾を惹き起すやうな事があります。春には春の菓實があり、秋には秋の菓實があり、四季連綿として其供給の絶ふることなく、梅が盡きれば覆盆子が出で、夏味柑が出で、桃が出で、斯くて夏も半ばを過ぎれば葡萄が出で、林檎が出で、柹が熟し、漸次ゆづ、橙、蜜柑の頃となります。林檎や蜜柑は冬季に於ける菓實の王で、葡萄やバナヽも一年中貯へられ、棗、無花果、梨子なども亦た欲する時に味ふことが出來るのであります。

菓實の水分を菓汁

と云ひ、著るしき香味と色澤とを有つて居る最も清新で、且つ最も人心を爽快ならしむる力のあるもので、神祕微妙の作用により地中の水より吸ひ上げられて造られたものであります。菓實の殆どすべての成分は此菓汁でありますが、此外に尙ほ

酸と糖と

を含んで居ります。或種の菓實が甚しく酸いと云ふのは此酸を含むこと多きがため、又他の菓實が非常に甘美であると云ふのも此糖を含むこと多きがためで、如何に頬の落ちる樣な甘美い菓實でも、必ず多少の酸味を有つて居るものであります。總じて若い菓實は酸に富み、熟した菓實は糖を多く含有して居ります。

菓汁へ砂糖を混ぜて飲んでも、菓汁中の酸には變化のないもので、たとへばレモン水へ砂糖をまぜてドロ〳〵にして飲んだところで、酸味は依然として同樣であります。

稀鹽酸や稀硫酸で眞鍮や他の金屬を研いて光らせるものがありますが、菓實の中の酸も身體内に入つて口中や胃や腸などを清潔にする作用のあるもので、是等の所に居る黴菌は之がために打ち殺されて最後を遂ぐるものであります。此外菓實の中の酸は身體の血液を冷やし、腎臓の働きを輔けて血液の中の毒を盛んに尿中に排出させ、又肝臓の生理作用を興奮刺戟するもので、身體の建築材料中頗る重要なものであります。

菓實の中の糖分

は身體内に入りて熱をつくり之を暖かならしむるもので、身體内で燃燒して活力をつくり出すことは頗る多いものであります。

菓實の榮養價

も著るしいもので、殊に或種の菓實は他種の菓實に比し、身體の榮養となること誠に少からぬものであります。

バナヽ

は最も榮養に富んで居る菓實の一つで、其中には蛋白、澱粉、砂糖及び酸等を含んで居ります。之を炙つて食べれば其消化も頗る良い。

無花菓及び棗の類

も甚だ榮養分に富み、其中には多量の糖分を含んで居ります。

葡萄

も榮養分を含むことが多く、之を壓榨つて造り出した葡萄水は病人の最も良い飲料であります。一ポンドの良い葡萄は、一個の鷄卵よりも多くの蛋白を含んで居るそうであります。

林檎

は菓實の中の王で、如何なる病人が食べても良く、殊に心神を爽快活潑ならしめるものであります。

オランダイチゴ Strawberry.

は多少の鐵分を含んで居りますから、身體内に入りて血液をきよめ、健康を强め、皮膚に活き〳〵した色澤を與ふるものであります。

未だ青くて熟さない菓實は澱粉をふくみ、其味ひ苦く、之を食するのは危險であります。太陽の光線を受けて朝に夕と熟して仕舞へば、澱粉は糖分と化し曾て苦がかつた味ひは甘美なるものであります。卽ち凡ての澱粉が糖分に變化し終つた時が、

菓實の成熟

と云ふのであります。バナヽ、蜜柑、橙實、林檎の樣な菓實は木からもぎ取つた後でも引きつゞき成熟するものでありますから、未熟の時にもぎ取つても差し支へはありませぬが、之を樹上で成熟させたのに比すれば其味ひが頗る劣つて居ります。鑵詰めは食品を長く貯ふる一の方法でありますが、林檎、梅、梨子、葡萄、櫻の實等は何れも一と皮包まれた鑵詰めの如きもので、此皮の爲めに水も漏らず、空氣も入らず、自然本來の形と色とのまゝであります。

適當な菓實を撰んで適當時に食するのは、身體を健康ならしむる方法ではありますが、大に

食べ合せ

に注意せねばなりません。肉類と菓實とを同時に食べるのは宜しくなく、菓實と鷄卵と野菜とを同時に攝るのも望ましくなく、酸味の菓實と牛乳とを一所に口に入れるのも願はしからぬことであります。出來るならば菓實は菓實だけ、若しくは穀食の後で菓實を味ふ樣にしたいのであります。未熟の菓實は之を避くべきでありますが、

熟し過ぎた菓實

も亦た害がありますから、之を味はぬやうにしなければなりません。

多くの人は菓實を目して活ける家の良き建築材料と思ひませぬが、古代未開の民は之によつて大に身體を養つたものであります。菓實を消化し悪いと云ふものもありますが、これは菓實と共に餘り多くの砂糖を用ふるがため、菓汁が醱酵して腐敗を起し胃腸を害するのと、肉類、鷄卵、牛乳、其他種々なる食事の後直ちに之を食べるためであります。一日三度の食時に菓實だけ食べるか、或は麵包及び穀類と共に食べれば其消化は頗る良く、他に比類の無いほどであります。

胡桃類

は菓實の如く眼に美しく見へないが、其榮養に富むことは遙に之に優つて居ります。且つ多量の脂肪を含んで居つて蛋白若しくは身體活力の源となります。或種の胡桃の如きは頗る多量の澱粉を含んで居ります。最も良い胡桃は甘扁桃、ピカン、落花生、英產胡桃、榛の實、ブラジル產胡桃、椰子の實等であります。其他ヒッコリーナット、バッターナット、ハッヅルナット、ぶなの木の實なども、之を食して能く消化し得る人には、極めて良い榮養に富んだ食物であります。我國では食料として胡桃の用ひらるることは殆ど見ないのでありますが、西洋では好んで之を用ひ、殊に一の肴りとして食後、食間若くは就寢前などに少しづゝ味つて居ります。胡桃類は總じて菓實よりは不消化物でありますが、能く咀嚼して徐かに嚥下むやうにすれば甚しき害を起すやうなことはありません。乳汁若くは糊のやうに咀嚼すれば身體の榮養となること誠に多いものであります。然しながら胡桃には好き嫌ひがあつて、何うしても食べられぬと云ふものがあります。如何に滋養分に富んだ食物でも、頭から蟲の好かぬものは食はぬ方がよい。食つたために食はぬに優る苦痛を見ることがあります。

小兒に於ける耳の攝生（承前）

醫學士　内海靜一

次に御話し致しますのは、實は咽頭の病氣でありますが、耳と精神の發達に密接なる關係を以て居りまするから、一言致したいのであります。其れは、腺樣增殖症又は咽頭扁桃腺增殖症と申しまして、五歲或は十五歲の學齡時期に於て最も多くかゝりまして此の病氣は大人になりまするど、段々萎縮致しまして小さくなる疾病であります。此の病氣は、岡田博士の調査によりまするど、日本の學齡兒童二千人に就き、二人と少し以上の割合になる相であります。

此の病の影響はと申しますれば、單に合併症として聽官の障碍を起すとか或は歐氏管閉塞症であるとか、或は中耳の疾患を發すのみならず、精神と身體との發育が亦遲くれるのであります。而て腫物は咽頭最上部を閉塞致しまする爲めに、健全な人の樣に鼻から呼吸を營むで空氣を充分に送り込むことが出來なくなりまする爲に、仕方なく口腔呼吸を營爲る樣になります。睡眠時には、鼻孔が閉ぢまする爲に鼾聲をかきまするし、睡眠も隨つて不完全になります。斯くの如く鼻呼吸の障碍があり、而かも幼時に於て此の病が永く續きまするときには、固有なる一種特異な顏貌になりまするから、醫者は大抵一見すれば容易く診斷を付けまして、決して過ちはないのであります。

簡單に其の容態を申しまするなら、面相には表情的機能が乏しくなりまして、如何にも痴鈍さうで、顏色は蒼白くなり、口腔は常に開け放して、一見愚貌を呈して居ります。又聲高に談話をしまするど、共鳴しない爲に、聲が鼻にかかります。一體口腔呼吸なるものは、空氣の出し入れが不完全であり、又不自然でありまするから、胸廓の發育が妨げられまして、結核に罹り易くなります。此の病氣にかかつて居る小兒の習慣として、注意を一點に集注することが出來なくなるし、又記憶力が減退りまする爲に

學校は落第勝ちの者が多くて、成績は大抵善くありませぬ。

此の扁桃腺増殖症が、小兒の全器官に害を及ぼすことは、實に斯の如く大なるものでありまするからして、此の病氣の最も善く起ると申しまする、六歳から十二歳の小兒に對しては、其の男女たるを論ぜず、其の父母たり、養育者たるものは、平素から心掛けて居らねばならぬと云ふことは、當然の義務であると私は考へます。一旦病に罹つたときには前申しました如く、就學時期に於て、小兒智育の發達を妨害致しまするから、已に重症と心得まして、手術を行つて增殖した部分を取り去る外はないのであります。手術と申しましても、熟練した專門家ならば些の危險もなく容易く行はれまするのであります。其の結果は覿面に實現れて來ることは、實に驚くの外ありません。鼻呼吸は俗の通りに行はれるし、蒼白くて今迄は沈鬱相な容姿であつた小兒は、全然生れ變はつた樣に、眉目端正しく豐かなる、小兒固有の罪のない花の顏に歸るのであります。如かも多くの時日を要しないのであります。

以上申しました通りに、小兒の聽官の疾病は、普通は咽喉に原因が發するのでありますけれども、反對に耳翼及び外聽道から咽喉に病を起すことも少なくないのであります。

小兒の外聽道には、能く異物が這入り易いものでありまして、中にも小石、硝子片、針頭、珠類、豆果實などは、最も善く小兒の遊戲中に過つて入れ易いのであります。凡て是等の這入つた物體が、銳利であれば、外聽道壁を刺戟致しまして、炎症を惹き起すことがありますが、別に角ばつたものでもなかつたならば、無生の異物は決して耳に對して有害なものではありませぬ、多くは耵聹の分泌が盛になつて參りまして、之れが異物を取りまいて、外聽道に耵聹の栓塞を作りまするから、聽力が害せられます。是れを治すには單に洗ひ出せば宜しいのであります。假令如何なる事情がありても、決してピンセ

ツトや耳匙などで異物を攪拌しては不可ませぬ。これが爲めに内方に送り込まれて、除去することは益〻困難になる許であります。加之、過つて外聽道は傷けられ、鼓膜は突き破られ、聽骨は壓し付けられる様な危險に遭遇することがあります。腦膜炎、血管破損、完全耳聾などが、下手に異物を取り除け様とするときに起ることは少なくないのであります。それでありますから、異物は其儘にして放置つておいて、専門醫に正當なる治療を仰ぐのが最良の策であります。

最後に私は小兒の耳の外傷に就いて、簡單に申し述べやうと思ひます。能く小兒を制しまするのに、耳を引張つたり、又甚しきは亂暴にも耳を傷けることがありますが、之れは大變善くないことでありまして、これが度重りますると、小兒に皮膚傳染病を傳播すると云ふ恐れがあります。

耳血腫も又充分注意せねばなりませぬ、之れは耳翼を打ちますと、耳の外面上部に於て、帶靑赤色の半球形をなして居る腫瘍を作るのであります。

次に鼓膜の外傷に就いて申しますが、鼓膜は極輕度に耳を打つても、運の悪いときには、膜を劈くことがあるのであります。聽官は空氣と通じないで密閉して居ますから、打つた瞬間には、鼓室と外氣との界をして居ります鼓膜は、内方に壓しつけられて一氣壓半の壓力でなくては到底も破れない、隨分抵抗力の強いものにも拘らず膜が遂に破れるのであります。此の打撲などの氣壓の劇變に基因する單純の裂創ならば、數日か、長くて數週間で治癒りますけれど、耳室の奥にある迷路を傷けられた場合には、永時耳が鳴るとか、聽力が不完全であるとか云ふ様な故障が起るのであります。

是れで、小兒の耳の攝生の大體の要點を申上げた積りで御座います。併し現今一般に、動もすれば、耳を以て器官中の劣等物と考へて、多く注意を拂はれない様に見受けますが、之は誠に殘念であります。つまり耳の衛生を守るときは、精神身體共に完全に

發達したる、有爲大才の人物も得られるが、之れに反して衞生を怠つたときには、無用の鈍物を作るか然らずんば可憐なる嬰兒をして可惜、朝の露と消えしめるのであります。それでありますから、吾國の家庭などでも、小兒の耳の衞生に充分御注意專々怠のない樣に希望するので御座います。

酉の字と醫學

醫學士　竹中成憲

本年は酉の年なるを以て之に因める醫學上の文字を集めて見むと筆を援り始めたるに先第一に現はれたるは

●酒

の字なり。戲に酒を「水遊の鳥」といふ。扨酒は醫學の大問題にして之に原因して罪人を增加し、精神及び內臟を破壞するの事實ある以上は之を國家醫學の見地より一大害物視すべきは勿論なり。古今の學者中禁酒を奬勵するの士多くして飮酒を慫慂するものなき素より其所たり。現時片山醫學博士の如き熱心に禁酒を勸誘せらる。

予素より先進に嫌ふものなれど飮非兩家に對し左の區別を昭にせむことを希望す。

酒に善酒、惡酒の二種ある事

善酒とは日本酒に限らず總て上等なる酒類にしてアルコール含量の日本酒以下なるもの。

惡酒とは下等なる日本酒を始とし、總てアルコール含量多き卽ち强きもの、例へば日本に在ては泡盛、燒酎等、西洋に在てはブランデー、ヂン、ラム、ウキスキー、コンニアック等。

酒を右の二樣に區別して之を用ゆるものに左の區別あり。

甲　善酒を少量に用ゆる人

乙　惡酒を多量に用ゆる人

酒の利害を論ずるに當り此甲乙を區別せずして語るものは恰も火事を視て火は恐ろしきものなり炬燵に

も火も禁ずべしといふと同一なり。

予多年の統計に據れば肺結核は飲酒家に少く非飲家に多し其比例實に霄壤の差なり、此事は研究事項なるを以て今詳細を發表せず。

故に酒に關して古人の言へる名句の中にも下戸上戸各自勝手の事を述べて要領を得ず是此甲乙の區別を爲さざるの罪なり例へば

上戸の言

『酒は百藥の長』『酒は憂を掃ふ玉箒』『酒なくば何のおのれが櫻かな』『醉て沙上に臥す君笑ふ勿れ、古來征戰幾人か還る』『酒のめばいつか心の春めきて借金取りも鶯の聲』『世の中に酒と女が敵なり、どうぞ敵にめぐり遇ひたい』『酒は飲むべし……下戸の建てたる庫はない』

下戸の言

『始に人酒を飲む、中頃酒酒を飲む、終りに酒人を飲む』

局外中立の言

『酒は飲むべし飲むべからず』『上戸毒を知らず、下戸藥を知らず』『酒は亂に及ばず』

蜀山人が書たものに左の如きものがある。

飲酒法令

一、酒は飲むべし、酒はのむべからず。
一、節句祝儀にはのむ。
一、珍客あればのむ。
一、肴あればのむ。
一、月雪花の興あればのむ。
一、二日醉をさますにはひとりでのむ。

この外群飲、佚遊、長夜の宴、終日の宴を禁ず。

童謠にいはく、おまへその樣に酒のんで猩々にならんす下心、猩々よくのめども禽獸をはなれず、人として禽獸にも鹿猿べけんや。

文化十五とせといふ春の日しるす。

蜀　山　人

世に『蛇飲』なるものあり、窮して他人の酒を飲むをいふ其理由は『おあしがなくてかはづ(蛙―不買)の

む」の意なり。

西洋の飲酒家といふは我國の焼酎の如き强酒を用ゆるものにしてビールの如きは『水』の價値あるのみ、下婢すら寢に就くの前ビール一本を平らぐ、而して步調蹣跚として街路を逍遙し若くは醉て街路に眠るものは素より下等人民なりといへども西洋に甚だ多し、洋客の日本に來りて此事の少きを見て豫想に反するもの多きは是日本酒の特性なり日本酒は世界の各飲料中最も害少きものなり。試に洋酒に醉ふたる翌日と日本酒の二日醉とを比較すべし、洋酒の翌日の苦しき事は之を經驗せるものは之を知るべし。

次に『節酒』と『禁酒』とを善く區分すべし。

予は人類の性、古來の習として禮式より酒を除く事の不可能なるを信ず、禮式に善酒の少量を用ゆる差支なきなり、全然禁酒を斷行するときは總ての會合が淡白無味、蠟を下物として水を呑むが如きものとならむ予は切に希望す、上戶下戶兩論者『節』と『禁』との間に妥協せむことを『節』はいうべくして行ふべからず故に『禁』とすべしといへる議論は採るに足らず、是自制力なき凡夫野人薄志弱行者流の言のみ。所謂文明國就中米國に於ては紳士として酩酊するものなし、否酩酊するものは紳士の班に入るを得ざるなり、日本に於ても斯くしたきものならずや、僅少の會費を以て宴に臨み不得要領漢となりて衣に泥を塗り、茲に全く眞の泥醉の狂態を演じおのが面に泥を塗るが如きは文明人にあらざるべし。

麥酒を用ゆるの人に注意したき事あり、日本目下の風として麥酒を客に進むるに多くは果實を以て下物とす、是誤れるものなり、麥酒の下物には鹽からきもの少量を用ゆる事西洋の風なり、例へば筋子（魚卵を醃藏したるもの）鹽カラの類最も佳なり。

寒中の朝、人を訪問するに麥酒と蜜柑又は林檎を出すものあり、强て之を受くるもの宅に歸りて下痢する事勿論なり、又麥酒は酒と同じく微醺する事是亦

冬期普通の事なり、笑ふべからず。

以下更に『とり』に因めるものにして醫學に關するものを集む。

○鳥啄突起　啄(タク)は『くちばし』にして骨の一部烏の『くちばし』の如き形せるを以て斯く名づく是は肩の骨と前膊『まへうで』の骨と頸の骨と三ヶ所にあり。啄の字又喙(カイ)の字を用ゆ。

○鶯嘴　是は前膊の骨の一部にして肘關節にあり。

○鶏冠　これも骨の名、篩骨にあり。

○鼻翼　俗に『こばな』といふ。鼻の先の軟部なり。重症患者呼吸の際此部を動かすものは俗にもいへる如く眞に危篤なり。

○羽狀筋　筋の種類の名なり。

○鷹骨翼　腰の骨の一部なり。

○鵞口瘡　是は病名にて昔は「オイチウム」と稱へ今は「ミコデルマ」と稱する下等植物の口內に繁殖して口中の白くなる病なり。乳呑兒に多し。俗に之れを『白舌』(しろした)といふ(佐渡方言)

○鸚鵡病　なるものあり、學名を「プシツタコーシス」といふ。『あうむ』(人眞似をする鳥)の病にして人に傳染する事ありて吾人に肺炎を起すなり。

○翼狀贅片　(又三角翼といふ)是は眼病なり。眼の『白め』の所に生ずる三角形皺襞『しわ』なり。

○『とりめ』　(鳥目、雀盲といふ)此病は晝間は物を能く視る事を得るも日沒より夜に入りて盲目となる病なり、故に『とりめ』といふ。

醫語にては『夜盲症』といふ。網膜不敏症にして先天的に一家族數名に在る事あり又急性的には産婦、牢獄、棄兒院等に於て榮養不良の時起る。

『晝盲』といふ症もありて患者は光線の弱きを喜ぶなり。

○鶏肝　雞の肝臓にして『とりめ』の藥なり。

○鶏眼　俗に(魚の目)といふ、靴等の壓迫に因り皮膚に生ずるもの。

○鷲手　尺骨神經麻痺するとき手指の狀鳥趾の如し名づけて斯くいふ。

○「とりはだ」（寒粟）　醫語にて『鷄皮』といふ寒冷を感ずるとき皮膚の立毛筋（壯士髮冠を突くとき髮を立せる筋）收縮するに因て起る。

○鸚鵡貝　軟體動物、四鰓類、其形『あうむ』の頭に似る故に名あり。殼を酒杯、釣り花いけなゞに造りて玩賞す。本貝の肉其味美なり。

○「とりがひ」（鳥貝、鳥蛤）　形『あかがひ』に似て大さ三寸計、肉の形鳥の啄の如し故に名あり。最も瀨戸内海士佐及び伊勢海に產し味美なり。

○「とりかぶと」（鳥頭）　北海道土人之を以て矢毒を製す、高四五尺の草木なり。一名を『雙鸞菊』といひ本草綱目にては『附子』といふ。

和名多し、「トリカブト」「ヤマトリカブト」「カブトギク」「カブトバナ」等なり。

「アコニチン」と稱する毒を含有するものとす。恐ろしきものなれども藥用に供す。

○『とりのあしぐさ』　漢方に『升麻』といへるもの一名『あはぼ』と稱し又『とりのあしぐさ』といふ、蓋し本植物の鷄、鵜、鷹等に藥效あるに因るといふ、一名を又『うたかぐさ』といふ『鵜鷹草』の意なり。

○『とりとまらず』　又『ことりとまらず』『鳥不止』又『鳥不宿』本名を『たらのき』（楤木）といふ、幹に刺多きを以て鳥とまらずといふ。春、幹の上に芽を生ず『ふきのたう』の如し之を食するに『うど』の如し、故に『うどもどき』又『うどめ』（吻頭）と名づく。本木の心（髓）より『酒中花』を製す。

『酒中花』とは多くは山吹の莖の髓（ずゐ）にて花鳥の形など作り押し縮めたるものにて酒盃に浮べて其脹れて開くを見て座興とするもの也。

○『とさかのり』（古名『とりさかのり』）　『雞冠菜』又『雞脚菜』と書す、海中の石に生ず、形『とさか』に似て高一二寸、食用に供するもの也。

○鳥鳴海神　大國主神の子なり、大國主神は出雲の神樣（大黑樣）にして日本醫學の元祖なり。大國主の別名を葦原醜男といふ。

○鳥海玄達　江戸の醫者なり、延享中醫を以て庄内

侯に仕ふ。頭寒を患ひ常に巾を脱し能はざりし病人を治して名あり。

○扁鵲　支那の名醫なり。

○『とりあげばば』（産婆、蓐母、舊刑法第三百三十二條第四百二十七條等にもある『穩婆』改正刑法第二百十四條には『産婆』とせり）。

○『とりあぐ』は『收生』（支那語）の意。今は之を『助産婦』（獨逸原語の意譯なり）と呼ぶ事を希望するものあり、予の著に『簡易産婆學』なるものあり。其餘白に云へる事あり。

『産婆』の事を『助産婦』と改稱すべしとは大阪より始まり緒方博士の考案なりと思ふ『助産婦』とは獨逸語の「ゲブルッ、ヒルフエリン」を直譯せるものにしてあしきにはあらず。然しながら頭のはげたる『若衆』もあるゆゑ名稱は深く氣にするに及ばず共に予に異論なし云々。

○『とりもち』（黏）鳥を捕ふるための『とりもち』を以て膏藥を製す、獨逸絆創膏と稱する四角なる鑵に入りあるもの是なり。

○酉と醫學の關係文字大凡右の如しとりあへず右を記して責をのがれつ。

育兒

學童の看護（承前）

秋山柴朗

小兒の筋肉を強くし、皮膚を強くするのも、看護の一つであります。

筋肉を丈夫にするには、練習が要ります。不規則な練習は、效の少いのみか、却つて害となる樣なことがあります、それゆゑ成るべく、規則正しく練習をさせる樣にするとよろしい。

筋肉の練習は、空氣の佳い處で、全身成る丈け平等に行き渉るものを撰ぶがよい、驅けたり、跳たりす

る様な類は、その目的に適つて居ります。

十三四歳にも達せぬ兒童に自轉車を購つて與へるやうなことは、身體のことを少し考へる人は決して致しませぬ。

運動をさせても、グニャ〳〵になるまでやらせぬ方がよろしい。

水泳ぎや、氷滑りの類も、小供が、面白がつて、よくやることであるが、これには又注意が要ります。ことに水泳ぎは、あまり永きに失せぬやうにせねばならぬ。脣の色が蒼くなつたり、上下の齒がガチガチ言ふやうになる程にまで永く入れて置いてはいけませぬ。

冷水浴も、佳い、しかし、いやがる小兒を強ひて行はせることは、よくない、次第々々に、溫な水から冷にしてやらせると、いつの間にか馴れて參ります。

貧血、衰弱の兒童は、五分間位の冷水浴をさせると佳い。

もつとも、兒童に冷水浴をさせる前には、一應、醫者に相談をして、その意見を叩くのが適當です、人によつて却つて、藥と思つたことが、毒となる場合があるからです。

身體の大部分は、筋肉と骨とから、成立して居るのであります

から、筋と骨との發育を催進するやうに努めるのが必要です。されば適當の體操や、遊戯は、身體發育のためには、榮養と同じ價値があります

呼吸を有利にすることは大切なことの一つであります。

それであるから、成るべく空氣の佳い、廣々とした所で、住はせることが大切です。

深呼吸は、胸を擴げますから、適當な呼吸運動である、これも、空氣の佳い所で、一定の時間に、正しく起立して、毎日行ふ様にするのがよろしい。

衣服のことも看護上注意を要すべきことである。

衣服はどんな種類のものでも、狹きに失してはいけない。例へば、襟、帶、袖衣、靴下止め、靴の如き無闇に小さいものは、頗る惡い。形や、外觀の樣なことも、無論度外視するわけには參りますまい、けれども、身體を犧牲に供してまでも、外の形貌を張る必要はありますまい。人間にはそれ〴〵なさねばならぬ大切な務めがあります、人形と同じ樣になつては、困ります。

靴は、常に乾いた、溫いものを穿かせるやうに注意を要します。

雨のふる日、道の惡しき時は、靴被を穿め、足のぬれぬ樣にして、學校に著けば、これを外し、又歸りがけにこれを穿める樣にするのです。一日ぬれた靴を穿いた儘、學校に居ることは、殊に冬の日に於て害が甚だしい。冬の日にうすい衣服は、殊に虛弱の小兒に於て、好ましくない、生來虛弱の人は、僅かの寒さにも風を引く、それですから、汗の出ぬ程度に於て、溫にして置く必要がある。最も薄著をして居ても、外界の變動に侵されぬまでに、兒童の健康を保たしめると云ふことは、大切なことです。

小兒はまた種々の傳染病に罹り易いものである。それゆゑ、若し病める小兒の友人が、如何なる種類の疾病であるか、明かならぬときは、無闇に往來せぬように注意がいります。又傳染病者のある家で、種々なものを飲食せぬやうにすることも必要である。

小兒の手と指が不清潔のために、害となることも少くは無い。小兒はよく動物を接觸て遊びます。犬や、猫や、馬や、鳥を觸つた指で、鼻の孔をほじつたり、口の中をさはつたりすることは、極めて危險です。身體及び衣服等の清潔を奬勵して、これが習慣を與へるときは、やがては、精神の清潔を生む栞となります。

（以下次號）

家庭衛生

衛生小言

婦衛冠者

我邦に於ましては、千有餘年來儒敎や佛敎の感化を受けまして、道德上の事は隨分やかましく申しまして、身體髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始なり、などゝ子供の時分から暗記致したものでありますが、案外この衛生上の事は等閑にされて居たやうな傾があるのであります。近代に至りまして、學術の進歩と共に、これではならぬといふので旺に衛生上の事柄に注意するやうに成りましたが、まだまだ歐米諸國程に、學問の進歩に伴ふて衛生思想は普及されて居りませぬ。例へば諸種の傳染病に就て見ましても、歐米には段々流行らなくなつて來て彼の結核なども年々減少して參りますが、我邦にては歲々增加する、また帝都の中央にペストが發こるといふ始末で、實に耻かしいばかりでなく、眞に憂ふべき事であります。これはつまり衛生思想がまだ一般に普及されて居ない證據なので、何程衛生官や醫學者ばかり氣を揉んでも、急に出來る仕事ではないのであります。それで一家の衛生主任たる御婦人方の衛生思想に俟つことの大なるは申すまでもない事で、此の會、此の雜誌などは全く只此の目的を以て生まれ、此の目的の爲に働いて居る譯でありますがどうか此の衛生思想の一般に普及されるやうに致し度いものであります。然し今度は又餘り衛生々々と申してからに、人參服で首絞るとか、牛の角を矯めるとかいふやうな弊害も起つて參るものでありますから、私は主としてこの衛生上の杓子定規的應用を正す心得で、色々氣の付た事柄をお話して見たいと思ふのであります。

人は死すべきもの

是れは餘りに確實な事實でありまして、どうかすると却て忘れられる。そこで色々の誤り、種々の迷が生ずる。現時の醫學上どうしても治癒らぬ病がある。その時にはそれ相應の治療法が有て、餘病を起さぬやうに、なるべく輕く經過するやうに手當をする。然るになほ八卦を見て、何處の神樣、彼處の佛樣と馳廻つて、御祈禱やらお禁厭やら種々雜多な事をやる、而して病をますます不良の狀態に陷入れることとが尠なくない。その上何は彼の醫者に殺されたなどどいふ。是れ皆、人は死すべきものであると云ふことを明かに承知して居らぬより起る過である。

人は生くべきもの

生れた以上は死ぬ。死ぬが、死ぬまでは完全に生きることを務めねばならぬ。彼の石田三成が六條磧で刑せられむとした時に、腹が痛いと言つて、番人に藥を求めた。番人は嘲笑つて、今死ぬばかりの身に藥の必要もないではないかと言つた。然るに三成は汝等は身體の大切なることを知らぬのである、自分などは死するまで決して身體を粗末にするものでないと言ふたと申すことである。凡て死して而て後止むといふ意氣ごみの人には、此の場合に至るまで衞生は必要なのである。

自然の良能

餘り熱い物を食べると舌が燒ける、餘り冷たい物を飮むと齒に浸む、かういふものは食べたり飮だりしてはならぬのである。何處かに痛みを覺える、其處に病氣があることを知らせ、或は用心させるのである。もし此の痛といふものがなかつたならば、何如な病氣が有ても、如何なる怪我をしても、平氣で放置つておくから、直ぐ大事にたち到り、忽ち人類は絕滅するであらう。此くの如く痛も大切なものである。然るに吾々は往々敵と味方とを思ひ過ることがある。例へば腹が痛む。痛むといふて、不攝生は棚に上げて置いて、痛を惡む。吐く、胃に在て惡いから吐くのである。下痢る、腸に在ては惡るいから出してしまふのである。種々の病氣で熱が出る、熱は

體内の病毒を消さうとする働である。故に醫者は、わざ〳〵吐劑、下劑、發汗劑などを用うる。然るに此の疼痛、嘔吐、下痢、發熱などの味方をば、一切仇敵だと心得て居る。そこで彼の醫者は吐くのに、止めることも知らない、下痢るのにまた下劑などをくれると小言を云ふやうなことがある。此の自然の良能といふことを知らぬ故である。

醫藥療治

前に述べた通り、症状はあながち仇敵ではない。然し味方も時には邪魔をするに至ることがあるので、その時にはこれを制して、巧に利用せなければならぬが、醫者の相談なしに、痛ければ痛み止めの藥、下痢れば下痢止めの藥と、一切の病氣を一束にして只自然の感覺に任せて賣藥を求めて手療治をすることは宜くない。

衛生談

新聞雜誌などに、時々養生話や衛生談が載せられるが、それを見て直ぐ應用する人がある。これは結構なことであるやうだが、餘程考へなければならぬ、と云ふのは、或特別な場合に於ける養生法を、一般に應用したり、大人の養生法を小兒に行つたり、病人の養生法を健康者が守つたりするからである。特に處方などを見て自分で調合して用うるやうな危險千萬な事をやるからである。凡て衛生に關する事を讀でも聞ても、自分の身體位置境遇に依て、よく取捨して、其の場合〳〵の事情に應じて、應用しなければならぬのである。さうでないと隨分滑稽な杓子定規的衛生を實行することになる、それればかりでなく時には却て害になることもあるから、餘程注意してかゝらなければならぬ。

急に改めぬ事

事にもよるが、一般に今までの習慣を急に改めることは宜しくない。衣服でも飲食物でもさうである。それで旅行などをする時にも、異た土地の水を飲だり、珍らしい食物を食べたりして、しくじる事が多い。移住する時などには、なるべく從來の食物に近

いものを用ゐ、段々其の土地の物を用うるやうにするがよい。西洋の物を採用するにも、此の心得でやる。

無益な心配

心配は毒になる。餘計な心配する代りに、守るべき衛生法を守ればよいのである。それで病氣に罹れば致方がない、信ずべき醫師に一任する。その上心配するのは全く無益な事で、傳染病流行時などに、其の守らねばならぬ豫防法はおろそかにして、徒らに恐るゝのは、精神的に病氣を招く所以である。

餘計な手當

例へば傷して血が出る。少しの出血は、自然に止まる。即ち血が出るので、這入つた毒も流し出され、適當な時分に血が止まつて、暫くするとその創口に血の膏藥が出來て、外から悪いものが侵入れぬやうになるのである、而して下で創が治癒てしまつた頃には、痂皮の膏藥は自然に剝落ちる。この通り前にも述べた自然の良能があるのだから、妄に袂の塵を着けたり、様々の物を塗たりすることは、甚だ宜くない、否大害がある。消毒藥などを以て洗ふのは悪くもないが、此も強い石炭酸などを用ゐて甚だしい害を招くことがある。血は餘程澤山出なければ死ぬものでないから、少々の創はそのまゝにして醫者に持て行くのが一番善い方法である。ひどく出血する時はその上の方、心臓に近い方を手で壓へるなり、紐で縛るなりすればよい。凡て周章てゝ餘計な手當をしない方がよい。

血を吐いた時

咳嗽と共に肺から血を喀くことがある。又嘔氣を催したり、腹が痛むだりして胃から血を吐くことがある。何れも危險ではあるが、周章てゝはならぬ。特に聲を立てたり、動いたりしては悪るい。即ち肺なり、胃なりを可成靜かにして置くことが大事だ。但し鹽水を一杯ぐつと飲むのは宜しい。

傳染病らしき時

夏向などに赤痢とか虎列刺とかに罹つたらしい者が

出來たらば、まご〳〵せずに先づ第一に患者を蚊帳の内に入れて置くことである。蠅だの蚊だのが患者に附いて、また外に病毒を撒き散らすのを防ぐには是に限る。

着せ過ぎ

溫帶地方では冬の外殆ど着物は必要がない。これを着るのは禮儀とか裝飾の爲である。一體は全身に日光と空氣を十分に浴びることは必要なのである。それに小兒などは生れ落ちたが最後、幾枚も〳〵衣服を重く厚く纏ふて寒中汗をかく程着せて大切にする殆ど蒸し殺すやうなものである。その上紐を以て紙人形のやうに縛る。小兒を裸にしてやると非常に悅ぶのを見ても、餘計な着物を以て生埋めにすることの不自然なことが分かる。斯樣に愚なる親切に依て育てられた小兒の脆弱なるは當前のことである。

宿屋の寢具

宿屋の寢具は、一見淸潔なやうでも、なか〳〵油斷がならぬ。枕は禿頭病などの危險がある。寢卷は皮膚病の恐がある。蒲團の襟は結核、裾は淋病、黴毒安眠は出來ぬ。然らば如何にすると云ふに、枕には紙をかけ、シャツ、ヅボン下を着て寢ればよいが、尠くとも自分の寢卷を着て、蒲團の襟には携帶の風呂敷でも掛けて寢ればよからうと思ふ。

按摩の無法

挫いた時には強く揉だり、引張たりするのがよいといふて、骨折があるか無いかも確めずに、無暗に之をやるものがある。其の結果は治癒るべき骨折も治癒らなくして、一生の不具となる者がある。又凡て炎症の終には宜しいが、揉み散らすと稱して炎症の始や、或種の病氣に按摩をやれば、却て之を熾にし病毒を廣く傳搬する。倦怠い位の事には善いが、病氣の時には容易に按摩さんを信任することは出來ぬ醫者の相談が要る。

氣保養の誤

神經衰弱症などいふやうな風に精神の鬱抑して居る病人を捕へて氣保養をさせるといふ積りで寄席や

芝居などに連れて行くものがあるが、これは益々刺戟を與へて、愈々症狀を惡くさせるのである。

轉地療養の輕率

肺病は海がよい、脚氣には山がよいなど〻患者の狀態、病の時期、其の海、其の山の狀況なども考へずに、一概に轉地さへすれば善いやうに思ふて、其の結果却て病を重くし、或は途中又は轉地先に到著するや否や死でしまつたといふ樣な例がま〻ある。これも篤と醫者の相談を經なければならぬ事である。

無用の清潔法

鼻毛を剃る者がある。これは全くいらぬ清潔法である。鼻毛は鼻汁で濕ふて居て、吸ひ込む空氣の塵埃を濾し留め、洟をかめば外に出る。然るに此の大切な鼻毛を惜氣もなく剃て了へば、如何なる毒物でも塵埃と一緒に肺まで遠慮なしに通り拔ける。長くなつたら少し剪で置けばよいことである。又耳の孔を剃て、手拭の端を捻て石鹼をつけて掃除したりする者がある、これも要らざる清潔法である。斯樣な刺戟を與へれば、益々耳糞を多くするばかりである。其の外大なる危險がある。健康なる耳は斯樣なことをしてもらふ要がない、餘り耳糞が溜つたらば油をさして靜に洗ひ出す位の所である。

藥の服み過ぎ

病氣といへば藥さへ飲めばよいと心得て居るものがある。それで病氣に依ては、醫師が只守るべき攝生法だけを細しく話して、藥を與へぬ事があると、彼の醫者は人を貧乏だと思ふて藥もくれぬなど〻いひ、さなくとも何やら心細いやうな氣がして矢鱈に賣藥などを飲み、入らぬ金を費つて病氣を狂はす。又私は少し人よりも強くなければ藥がきかない方でなど〻妙な自慢をしてからに、一日三回に分服するやうに用法を示してあるものを一度に飲で死にそこなふものがある。これは漢方流の妙振出などを飲だもの〻癖であるが、今日の藥は左樣に心得てはならぬ。嚴重に用法を守ることが必要である。

喰はせ過ぎ

料理が下手な爲に食べられないこともあるが、病氣の時には一般に食慾が減ずる。食べた所でそれだけ消化し、吸收しきれず、又寢て居れば從つて澤山の食物は要らぬのである。それを傍の者が無理に勸める癖がある。特に胃腸加答兒の時などは、全く斷食させる必要のあることがある。それを傍の者が、さう何も食べないでは體が持たぬとか、いふて無理に食はせる。殊に小兒などには、醫師の吩附に背いてかういふ事をやる。而して直ぐ治癒るべきものを延引かせ、或は殺してしまふ。病氣のやゝ快方に向つた時もさうである。少し食慾の出て來たのに任せて胃や腸の傷が辛うじて治癒りかけた所へ持ていつて何でも患者の好むものを、どし／＼食べさせて、復た惡くする。昔から餓死したものは稀だが、食べすぎて死だものが甚だ多い。人は一日や二日は食べないでも決して死ぬものでない。それを病氣の時に、治療上醫者が禁ずるのを、傍のものが無理に食べさせるなどは甚だ以て誤つた話である。

啼泣くのはかまはぬ

世中には不自然な躾をする爲に、無邪氣な小兒を折檻して泣かせる親もあるが、又小兒が少し泣いてもひどく恐れて、心配する人がある。小兒の泣くのは職業である。生れ落ちると直ぐ泣き初める。これで以て肺も擴がり、血の循環も整ふて來るのである。最も甘やかして育てる小兒には泣癖もあるが、一つは泣くと心持が好いから泣くといふこともある。それに小兒が少し大きな聲で泣くと、何故泣くかといふ事も考へずに、直ぐ醫者を呼ぶやうな事をして、大にきまりの惡るいこともある。これはまあ大事を取り過ぎて結構な譯であるが、今度はこれと反對に眞に小兒が病氣の時に、藥を飲ませねばならぬ。その時に、小兒の藥は可成飲みよいやうには調合されるが、それでも小兒は厭がる。またさう味のよい藥ばかりもない。そこで此の藥は厭がつて、どうしても飲みませぬといふて醫者に突返す。そこで醫者が試みに自ら飲ませると、何の事なしに結構飲ませる

ことが出來る。これは畢竟少し小兒が厭がれば、厭がるものを、さう無理に飲ませぬでもよいと思ふ、又泣かれるのが辛いと云ふ臆病心があつて、飲ませねばならぬ藥を飲ませ切らぬのである。藥は大人でも好きではない、況や小兒をやである。病氣の爲には仕方がない、外科の手術も施さねばならず、厭がる藥も、泣くのを應用して一寸飲ませる、或は口を割ても飲ませる必要のあることがある。泣くに生命は換へられぬと思はなければならぬ。

手拭と手水鉢

便所に行た後で手を洗ひ、手を拭くのは、其の手が不潔であるといふ考から起つた習慣で、誠に結構なことである。實際不潔である。大小便及び便所の空氣が不潔なばかりでなく、便所の戶を開閉する時に最も直接手が不潔になる廣がある。それで便所の戶の**手を掛ける所は、十分清潔にして置くことは勿論**であるが、尙ほ手を洗ふ必要があつて、何處の家でも便所の近くに、手水鉢を置いて、其の傍に手拭を掛けてある。洗ふ、拭く、これは大切な清潔法の形式であるが、その水、その手拭を一つ取調べて見なければならぬ。孑孑の涌いて居る水も水といふて居る。臭氣のするやうな手拭でも手拭といふて居る。かうまでにはなくとも、これの程度の低いだけの手水、手拭は頗る多い。斯樣な水で手を洗ひ、斯樣な手拭で手を拭くのは、其の目的と反對に、不潔物を手に灌ぎ、不潔物を手に塗り込むのである。眞に手を清潔にしやうといふ目的ならば、何ぞ消毒液か、然らざるまでも常に新しい水を用ゐて、清潔な手拭で拭かなければ何にもならぬ。さうでなければ寧こんな物は置かない方が餘程增しである。

病人の榮養品（承前）

A. S. 生

牛乳療法の一二の注意

牛乳は川の榮養品中で、最も良い物であるといふ

が異で有るとすれば、榮養狀態の不十分なる、或は異常の榮養狀態が甚になつて居る或る病氣に際して何故に醫者が其身體を改善し、力を付ける爲に直牛乳を選ぶかゞ分るであらうと思ひます。然し牛乳は重症の消化不良及び榮養障碍に於ては、たゞ患者の狀態に適當した一定の方法に從つて與へねばならぬと云ふ事も分りきつた事であります。

何れにしても牛乳療法には善良なる牛乳、大なる注意又患者の方の規律と忍耐とが最も必要な事で有ります。

(ア)牛乳療法には、前に申上げた見分により且つ牝牛の健康狀態に氣を付けて乳を選ばねばなりませぬ。是に就は醫者に判定して貰へば宜しい。

一般に、少くとも初には、脂濃きものよりも所謂脫脂乳の方が好い。

(イ)牛乳療法を行ふ者には、普通の三度の食事を守らなくとも宜しい。卽ち各々其食事の時間を定める。患者は度々に且つ常に少量づゝ牛乳を飮む。

それは例へば次の樣な風に致します。

患者には丁度二時間或は三時間の後に一定量の牛乳を飮む樣に命じまして、其過敏なる胃であつても、これに由て少しも苦痛を感ぜぬ程の少量より始めます。例へば四匙の牛乳に堪へない時は二匙或は一匙より始るのであります。

夜間には、たゞ療法の爲だけに、よく眠つて居る患者を起す事は不必要であります。患者が眼を覺した時には其間に乳を飮せる樣にいたします。

又患者各々の狀況次第で每日その分量を增してまゐりますが、其增かたもこれに由て患者が胃に故障を覺えぬ樣に段々とやらなければなりません。

大抵の患者は、とても一時に多量の牛乳には堪へられないものであります。一時に多量の牛乳を飮みますると著しき乾酪形成が起りますので、此緻密に固まつた處の乾酪質は胃を害する樣になります。そこで先極少量より始ねばなりません。卽ち牛乳を藥の樣に十五分乃至三十分每に一匙づゝ與へる、そうす

れば容易に消化される譯であります。
右の理由に依りまして胃に於ける酸形成に悩む處の人は又極少量の牛乳でなければ堪へられぬ譯であります。斯いふ場合にはしば〳〵間の時間に一刀尖の重炭酸曹達を與へ或は牛乳に多少炭酸水を混ぜます。
又多くの患者は牛乳ばかりでは堪へられず、幾等かの副食物を要しますが、これには最も良いのが粉性の食物殊にビスケット、白パンの皮、或は粗挽麥から醱酵させずに造つたパン即ちグラハムパンなどであります。
稀な事ではありますが、牛乳療法に際して疝痛樣の腹痛が起る事があります。其時には芳香性の茶劑、例へば薄荷茶が效能があります。たゞ極少量の牛乳にも堪へない時、患者が嘔氣を催して堪へられない時、或は又まゝ起ります處の續て水樣の便が來る時には、一時牛乳療法を止めねばなりませぬ。然しながらまた久しからずして段々飲ませ始める事を恐れる要はありませぬ。忍耐して持續すれば、始には抵抗した所のものも漸く慣れて參るものであります。その初には、小兒を養ふやうに一匙づゝやらなければならなかつたものも、五週間も經た後には毎日四リーテルから六リーテル位の牛乳を飲めるやうになるものであります。
たゞ慢性の病氣には、學理に從つて嚴重な牛乳療法を行はなければなりませぬ。乃ち凡ての慢性肺臟疾患、いろ〳〵の心臟諸病、或種の胃病、殊に凡ての種類の貧血(萎黃病)全身の虛弱等でありますが、腸管に潰瘍の出來た慢性腸加答兒でも、牛乳療法をやつて居る間に緩慢ではあるが、確實に治癒つた例もあるのであります。

牛乳製劑

酸乳　是はやゝ高い溫度で久しく置くと糖分が乳酸に變するので出來たものでありまして、其の榮養價は新しい牛乳と異はりませぬ。之を病人に與へてよいか、どうかは、その場合に依て醫者が決める。只

注意すべきことは、胃に過剰の酸が出來るやうな時には、酸乳はとても堪へませぬから、此の如き場合には、無論之を避けねばなりませぬ。

酪漿は病的榮養狀態、特に慢性胃病の時に、よく醫者の薦むるものであります。これは多くの脂肪を牛酪にして取たものでありますから、通常の牛乳よりも榮養分は少ないのでありますが、その脂肪の多い牛乳に堪へない時に之を與ふるのであります。酪漿は通常の牛乳ほどに乾酪質を含んで居りませぬので、それで普通の牛乳よりは消化し易いのであります。この酪漿は民間で下劑として用ゐて效能のあるものでありますが、一般に慢性便秘、痔疾などのある人が用ゐて宜しいものであります。

モルケ　是は脫脂乳に醱酵素を加へて製するものでありますが、斯くして乾酪質が分離した、其殘が卽ちモルケであります。小獸の胃などを醱酵素代りにして製したものは之をジユーセモルケと申します。モルケは、綠色の溷濁た液體でありまして、牛乳の成分中たゞ水と砂糖と鹽を含んで居るだけであります。それで其の榮養價のどんなものであるかも直ぐ分る譯でありまして、兎に角その消化し易いといふことは眞實でありますが、榮養分としては、その砂糖だけであります。

肺病人の養生には、通常たゞ獸胃を醱酵素として製つたジユーセモルケを用うるばかりであります。又慢性の腸加答兒とか、下痢の傾あるものには、明礬モルケを用うることがあります。一般にこのモルケを用うる時にも、前に申し述べた牛乳療法のやうに最初は少量より始めて、且つ時間を正しく、段々慣れなければなりませぬが、若し消化障碍或は持續性の下痢などの起る時には、直ぐ止めなければなりませぬ。

一體本式に牛乳療法又はモルケン療法をやりますには、通常床に就て居ない患者で、新鮮な空氣中に十分運動することの出來るものでなければならぬのであります。

（以下次號）



雜報

○ペスト彙報

▲栗本氏の豫防談

警視廳第三部長栗本氏が東京に於けるペスト豫防談を聞くに左の如し。

京橋日本橋兩區殊に東湊町佃島町等は本年捕鼠檢疫の結果有菌鼠の巢窟と見做す事が出來るので嚴重に殺菌方法も講じ豫防もして居たが東湊町に患者が出來た以來は愈〻注意し始め豫防區域も勉めて擴張し日比谷河岸一圓永島町の邊迄捕鼠機を備へ健康診斷を行ふたにも拘らず其豫防區域に隣接せる長澤町に新患者が出たのは遺憾千萬だ長澤町は日本橋の有菌鼠の巢とも云ふ可き佃島町に接近して居るから鼠から鼠から傳染した事は爭ふ可からざる事實だ同所は貧民部落なので餘程嚴重な消毒もし豫防區域も出來る丈け擴張せねばならないから今度は本材木町高代町八丁堀一圓に殺菌劑を配付し捕鼠機を設備した猶警視廳では吏員四七三名人夫六六一名を煩はし京橋日本橋神田下谷淺草本所深川水上に亙つて捕鼠につとめ一日に五千乃至七千匹の鼠の檢疫として居るが殘念な事は我が國では家屋の構造が不完全な爲め人間が鼠と共棲する樣な不體裁を演じて居る少なくとも歐米の文明國では家屋の防鼠設備が完全なので決して鼠が家屋に居る樣な事はない曾て英國のグラスゴーにペストの發生せし時下水に殺鼠劑を撒いて鼠を全滅させたのでさしも猖獗を極めしペストもピタリと止まつた例がある不幸にして我國では此んな事は出來ない一度ペストが發生すると千五百圓内外の金を徒らに費し而も其の效果は尠ないと云ふ情ない有樣であるであるから我等は常に家屋の防鼠設備を世間に說いて止まないのである既に大阪では實行して居るが一戶につき僅かに一圓五十錢內外で出

來る東京でも此際敢行せしめたい云々左に氏の防鼠設備に關する規定を掲ぐ。

簡易防鼠設備に關する件

(甲)一戶建及長屋建の普通住家に於ては左記各號に依り鼠の侵入を防止すること

一、下水口、臺所流し口其他外部に開口する部分には金網の類を被ひ又は釘類を並列して鼠の通路を塞ぐこと

二、周圍土臺下の空隙は石、煉瓦、コンクリートの類を以て塡充すること

三、壁又は羽目板等の破損せる部分は相當之を修理し其の他鼠の通路となるべき孔隙なき樣注意すること

四、鼠の攀登を防ぐ爲可成建物の周壁外面下部に沿ひ土臺上二尺以上金屬板を張詰め又鼠の地下に穿孔する虞ある場所に對しては同地下一尺以上の深さに金屬板を埋込むこと

五、牆塀を繞らせる家にては一號乃至三號に依るの外牆塀下部の間を金網又は金屬板の類を以て塞ぎ、門、木戶口等閉鎖の場合にても亦下部より鼠の侵入せざる樣注意すること但し鼠の交通若は登攀の虞ある牆塀に在りては前號に準じ外圍の下部三尺の高さまで金屬板を張詰むるを要す

(乙)主として穀類、豆粕、綿花、屑物等鼠の蝟集を來たすべき物品の商店に於ては前項(甲)に依るの外商品の貯藏所又は之を取扱ふ場所に對し左記各號の施設を爲すこと

一、地盤を厚きコンクリート敲となし又は石又は煉瓦にて補ひ若は周壁門面に沿ひ地下二尺以上の深さに金屬板に埋込むこと

二、鼠の交通棲息の虞ある周壁に對しては其の內面下部に金屬板を張詰むること

(丙)主として穀類、豆粕、綿花、屑物等を收藏する倉庫、納屋にして其の構造不良なるものは一時應急設備として其の周圍下部に沿ひて地上三尺の高さまで金屬板を張詰め又地下二尺以上の深さに之を埋込み且つ戶口開放の際は相當の鼠返しを設備すること

(丁)連檐櫛比の地際に於て各戶の防鼠設備を爲し難き場合は數戶若は數十戶を一區劃とし共同して左記各號に依り鼠の侵入を防止すること

一、下水口其の他區劃の外部に開口する部分に堅牢なる金網類を施すこと

二、外部に面する周圍の壁、羽目板、戶扉等に接着して土臺上三尺の高さまで外觀を損せざる樣金屬板を張詰ること

三、區劃の周圍に於ける土臺下の空隙は石、瓦、コンクリートの類を以て塡充し又鼠の地下に穿孔する虞ある場所に對しては地下二尺以上の深さに金屬板を埋込むこと

四、路次口等に戶扉なきときは之を設け外面下部三尺を金屬板張とし又閉鎖の場合に下部より鼠の侵入せざる樣注意し且つ其の開閉は可成自在裝置となすこと

五、區劃內の各戶に於ても可及的(甲)に依り防鼠設備をなすこと

(戊)貨物陸揚場、停車場、其他貨物集散場附近等一定地域に防鼠設備をなす場合は下水溝其の他外部に開口する部分に相當の防鼠裝置を施すの外適當の場所に高さ三尺以上堅なる金屬板塀(地下二尺以上の深さに埋込むを要す)を設け出入口等には夜間鼠返しを設備すること

▲下澁谷のペスト

豐多摩郡澁谷町にペスト患者を發生せしより去月末には赤坂區青山高樹町及青山五、六丁目の民家に對し大消毒法を施行したるが、尚は下澁谷には第一師團野戰砲兵聯隊、近衞砲兵第十三、四聯隊同輜重兵大隊及騎兵實施學校等の軍衙軍隊存在するを以て陸軍省にては近衞、第一兩師團の軍醫部長に命じ相當の警戒法を講ずべき旨の命令を發し、軍衙軍隊の各出入口に假診斷所を設け軍隊關係の外來者に對し健康診斷を行ふことゝなれりと。

▲捕鼠數

ペスト豫防撲滅の目的を以て去る五月上旬より六月三十日の間に東京市內各區及び郡部に對し捕鼠器を配置し捕鼠を勵行せる結果捕鼠數三萬に及べり。乃ち京橋、日本橋、神田、下谷、淺草、深川、本所水上の各署及び豐多摩郡澁谷町にて配置したる捕鼠器の數は合計二十萬四千五百二十四個にして、捕鼠斃鼠の數は二萬七千八百十一頭、京橋、日本橋、豐多摩郡澁谷町の住家、物置、倉庫に對し消毒清潔法を施せるもの四千七百二十、亞鉛塀一萬四百七十一捕鼠、斃鼠の數は八百九十四。以上の管內に於て殺鼠劑を配置せるは三十三萬五千百九十一、除鼠十一なりといふ。

▲橫濱のペスト

橫濱のペストは一旦鎭靜の模樣なりしも其後相變らず新患者を出し、防疫に務むるも未だ其效を完ふする能はず續發また續發今日に至つて二十八人目の新患者を出し、斯くて橫濱は遂にペストの巢窟たらむとするか。

○海港檢疫の現狀

窪田衞生局長の談に據れば我邦海港檢疫の概況は左の如し。

檢疫港　我國現在の常設檢疫港の主なるものは橫濱、神戶、門司の三ケ所にして外に長崎、博多、唐津、函館等數ケ所の設けありて常に惡疫の流行の絕えざる南淸地方を經て西より來る者に對しては門司及び

神戸の二ヶ所に於て檢疫を行ひ比較的惡疫の尠き東より入港するものに對しては横濱に於て一回の檢疫を行へり。

檢疫の方法　旅客檢疫は容易なるも貨物の消毒に至りては滿足なる成績を擧げ能はざるを遺憾とす即ちペスト菌の消毒に付一例を擧げんに器物を損ずる事多く止むを得ず一定の陸揚場に鼠族の出入し得ざる堅牢なる倉庫を設けしめ三十日間此の倉庫内に保管せしめ病菌の斃死するを俟て輸送せしむるの方針を取り居れり。

獨逸の新消毒方法　目下獨逸に於てはペスト消毒法に關し船舶内に於ける鼠の撲殺と同時に其の貨物に對し何等の損害を與へずして消毒し得るの方法發明せられ現に試驗中の由なれば此の方法にして成功するに於ては海港檢疫上實に一新生面を開くに至るべし。

視察の結果　過般來關西九州及四國地方視察の結果一般の海港檢疫は頗る好成績にて毫も非難する所あるを發見せざりし。

捕鼠法の巧妙　就中檢疫所に於ける雇員が荷足船の如き小船内に於て雙手を以て無數の鼠を捕ふる電光石火の早技の巧妙なること驚嘆の外なし。

門司檢疫所の改築　門司檢疫所は甚だしく腐朽し何時倒潰するやも知れざる有樣なるを以て四十三年度豫算には是非共之が改築費約十萬圓内外を要求する者なり云々。

○脚氣調査所施療

臨時脚氣病調査會は前月來脚氣病診察所を麴町區隼町東京第一衞戍病院内に設置し一般公衆患者の診療を行ひつゝあるが、該診察所の規定に據れば診療に要する藥劑等は患者の身分如何を問はず總て無料なるは勿論、希望によりては人員を限り無料入院をも許すと云ふ。外來患者の診察は日曜祭日の外は毎日午後一時より三時迄なるが、七月十一日より九月十日迄は午前八時より十時迄の由なり。猶受診者の通用門は平川町天神外の病院裏門なりと。

○初虎列剌

昨年夏季降雨の後所謂赤潮のさすありて横濱近海一帶の魚族斃死し虎列剌病蔓延の一原因とせられたることありしが本年も同樣去月末に至りて海水著しく赤色を呈せしより神奈川縣測候所は之が研究をなしつゝありと。その果して赤潮と虎列剌との間にしかく密接の關係ありや否やは知らざれども、これが爲に魚族斃死すれば從つて病毒の人體に及ぶこともあるべきなり。本年も亦この赤潮と時を同うして既に初虎列剌の發生を見る、何は兎もあれ夏季の魚類には大に注意せざるべからず。

○酒造家とサリチール酸

全國酒造家大會の代表者は大藏省及び內務省を訪ひサリチール酸混用禁止の延期に就て陳情せりと云ふが、之に對する內務省の意向を聞くに、本問題はサリチール酸の多少衞生上に害あるは勿論の事にして中央衞生會にも諮詢したる上規定せるものにして既に論議すべき限りにあらざるも尙釀造技術の程度に就て調査せる後中央衞生會の意見をも徵したる上ならでは決定し難しと云ふにありと。

○米商と白土

一般に米穀商の白米に白土を混じて鬻ぐことはかなり古よりの惡習なるが、衞生局にては試驗の結果無害として之を許せるものなり、然るに一方に於ては取締上よりするも許すべからざるものなりとの議論あり。

大日本婦人衞生會記事

○本會例會

七月三日午後一時半より女子職業學校に於て例會を開く。當日は森博士の講演ある筈なりしが、恰も脚氣病調査會と時日を同うせる爲め本會の講演に臨まるゝ能はず、代理として陸軍三等軍醫正大塚陸太郎氏に本日の講演を委せられたり。定刻に至り司會開會を宣し、講演の豫告に異なれる事情を陳述して氏

を紹介するや、氏は正服姿にて演壇に現はれ、「軍隊衛生に就て」てふ題の下に約一時間に亙り講演せられたるが、厳粛熱誠しかも時々笑聲を洩かしめつゝさしも世人の餘り熟知せざる軍隊衛生の一般に就て頗る平易に且つ普通人の應用に適切なる個人衛生を主として説かれたるは、聴衆一同の満足せる有益の談なりし。今左にその梗概を記さむに、軍隊衛生と雖も敢て普通の衛生と異るものにあらざる事より説き起され、軍隊衛生の區分を述べ、主としてその中の個人衛生に就て、一般人の家庭に於て參考となるべき兵營起居の定則を經とし、飲食衣服の常規を緯とし、洗面、洗濯、溫浴、理髮、炊事、便所等の注意より起牀、就寢、掃除、消毒等に至るまで細大の衛生法を述べ、終に軍隊に於ては此の如く衛生法を勵行すと雖ども、社會一般の衛生法と相俟て、初めてその完全を期するを得るものなるを以て、特に諸姉のこの點に就て盡粹せられんことを望むと結んで壇を降られたり。

右終つて、別室に茶話會あり、四時過散會せり。當日出席の役員は左の如し。

鍋島會長　濱尾副會長　山口てい子
田村喜代子　服部しげ子　村田三緒子
小川幸子　三浦敬子　土肥多越子
三宅藤子　岡山とし子　鳩山春子
高木錸子　岡田德子

○山形支會通信

山形支會は、六月十二日午後一時より女子師範學校に於て例會を開きたるが、出席會員二十餘名、講師清田醫學士便秘に就て有益なる講話あり、後割烹實習をなし、散會せるは午後四時過なりき。

○新潟支會通信

新潟支會に於ては、七月四日午後一時より縣立高等女學校に於て、當市婦人教育會と聯合して例會を開きしが、會員の出席者四十餘名にして、當日の講師

並びに演題は左の如くなりし。

小兒下痢症に就て　醫學士　工藤秀一郎
家庭教育　會員　前田むつ子
アイロの用法　評議員　鏡淵りう子

〇高崎支會

私立大日本婦人衛生會は、去る三十七八年戰役の際大に盡力する所ありたる趣にて、過般賞勳局より銀盃一個を下賜せられたるに付き、六月二十七日午後一時より、同市赤坂町長松寺に於て右銀盃披露旁慰勞茶話會を催したるが、雨天にも拘はらず、本會よりも濱尾副會長等臨席せられ、頗る盛會なりし。

〇本會入會者

〇武野ぶよ子紹介
●神田區龜住町七　通常會員　中川ふみ子

〇高崎支會ヨリ轉入
●府下千駄谷村原宿一九六　終身會員　横井秀子

〇高木幹事紹介
●麹町區飯田町五ノ三十五　特別會員　東村みね子

〇本會員資格變更
●特別會員ニ　通常會員　廣井綱子

去月掲載ノ本會入會者遠藤錠子ヲ通常會員トセルハ誤リ、特別會員ニ訂正ス

〇山形支會

〇三井こう子紹介
●　特別會員　柴田こさ子

〇佐柳千代子紹介
●　特別會員　齋藤吉子

〇山形支會員資格變更
●特別會員ニ　通常會員　關口たけ子

〇轉居

●牛込區牛込若町三十七へ　齋藤きよ子
●神奈川縣鶴見仲ノ町五五七　鈴木石子
●神奈川縣神奈川下反町二三七へ　神谷美香子
●牛込區市ヶ谷仲ノ町一七へ　廣井綱子
●牛込區市ヶ谷加賀町一ノ二四へ　松浦つる子
●四ツ谷區内藤町一へ　古田友子
●麹町區上二番町一八へ　永井鶴松子
●麻布區笄町一五九へ　長與その子
●麻布區富士見町五三へ　櫻田節繝子

タカヂアスターゼ

●**消化不良**に就て熊本醫學専門學校長**谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の症、大疼痛、溜飲、腸内瓦斯諸積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと。**又**本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化にも治するに適當なるを信ずと、

一 信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は眞に澱粉不消化に起因す、さればタカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。

タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本舗の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

●**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徴するに坊間に販かる、多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらされば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**、他は**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●世に幾多の摸造品及類似品あり**高峰博士發見の**ヂアスターゼを求めんには必すタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舗にて取次販賣す



●**營養增進**の目的を以て虚弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者に之を應用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の**栗本博士**は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたるを公示せられたり

●**藥効均等**論は輓近醫學者間に唱道せらる、所なり内務省横濱衛生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパーリデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一―〇・三錠劑（〇・一―三）なれば一錠―二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

◎女子師範學校（四ヶ年の）課程を二年にて獨修せしむ◎每月一回發行

女子師範講義錄

新學期開始

見本付會則（中越次第）進呈◎講師（東京女子高等師範）の教授教諭十數名◎奬學金（會員奬勵のため千圓を支出す詳細會則にあり）

此際入會特典あり◎東京市牛込區西五軒町十四番地（電話番町一三〇六）（振替一七〇〇二）

帝國女子師範學會

婦人界唯一の週刊新聞

婦女新聞

女子教育界の公共機關

每週金曜發行◎創刊以來滿九年

定價 一ヶ年前金一圓六十錢△半年八十四錢△三ヶ月四十三錢△全國無郵稅△三ヶ月以下注文謝絕す

一般の婦人にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば時勢に後るゝ事を顧みざる人なり
女子教育家にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば其の職務に不忠實の人といふべし
婦人問題研究者にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば其の目的を達する事能はざるべし

東京市牛込區西五軒町十四番地（電話番町一三〇六）（振替一八〇七）婦女新聞社

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に参列するを得但時宜により男子の参列は謝絶することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

◎會告◎

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依頼申上げ候

振替口座東京　一〇六〇〇番

●今月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年六月　大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黑塗箱入送費九錢）　六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤清之丞

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

明治四十二年七月十六日印刷
同年七月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十六號
（毎月一回二十日發行）